1 科目概要

教 科	<u>科目</u>		担当者(主)	履修年次(今年度)	単位数(今年度)				
国語	現代の	の国語	脇本 将吾	1 年	2 単位				
履修対象 全員必	前学年 継続履	 _							
教材 (出版社) 教科書 精選 現代の国語(三省堂) 副教材									
定期考査の実施	<u>1 学期中間</u> ※5 月中旬あたり	<u>1学期期末</u> ※7月上旬あたり	<u>2学期中間</u> ※10月中旬あたり	<u>2 学期期末</u> ※12月上旬あたり	<u>学年末</u> ※3年:1月末 他:2月中旬あたり				
※ 変更可能性あり	有	有	有	有	有				
<u>科目の目標</u> 下記の(1)(2)(3)を目標とする。									
<u>知</u>	識及び技能	<u>思考力、判</u> 断	力、表現力等	学びに向かう力、人間	性等 (全単元共通)				
	必要な国語の知識や けるようにする。	(2) 論理的に考え したり豊かに想像 ばし,他者との関 う力を高め,自分 げたり深めたりす うにする。	したりする力を伸 わりの中で伝え合 の思いや考えを広	(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わるうとする態度を養う。					
具体的な評価の方	<u>法</u>								
定期考査・授業									
<u> </u>	印識、技能	思考、判	<u>l断、表現</u>	主体的に学習に	主体的に学習に取り組む態度				
定期考	査を中心に評価	動を中心に評価	アウトプット・成身	果物を中心に評価					
担当者から受講上のアドバイス									
「話す」「聞く	「話す」「聞く」「書く」といったアウトプットを中心に行う科目です。								

2 年間指導計画※下図参照

学習時期 (予定)	学 習 単 元	学習単元内の内容のまとまり	備考
4月~5月	四 言葉を見つめる	「辞書は生きている」	
6月~7月	四 言葉を見つめる	「アガルとノボル」	
9月~11月	六 思考の枠組みを広げる	「「見える文化」/「見えない文	
	.5 (), / 5 / 5	化」」	
12月	八 マイクロディベート	「マイクロディベートとは」	
		「マイクロディベートをやっ	
		てみよう」	
1月~3月	五 ワールド・カフェ	「大切な会話―ワールド・カフ	
	·	ェへの招待」	
		「ワールド・カフェをやってみ	
		よう」	

生まった。大韓かりに乗り	道 事	心的な一	⊕	林 は	(赤	* (刀等)	出	表出	. 斯 力、	些 、 と	生 姚 京	B)						(黑	技能	S.	į Ķ					盟国の	現 代	
国場がでう位置 におかって成芸(に担め外ののでは に対象を持つを に対象を に対象を に対象を に対象を に対象を に対象を に対象を に対象	イ 目的に応じて 情報を相互に関係 を解釈したり、3 で評価したりする と。	ア 文章の差額を 組などについてき を把握すること。	を踏まえて、目5 りすること。	や、文殊、活知が 主 目的や意図! めて、文章全体!	で 目分の考えさ 赤し方や説明のため	イ 読み手の日 前の分量や重要日 を日末すること。	7 日的や意味 材を決め、集め7 で、信えたいこと		才 論点を共有し ら、适合いの日 行など結合いの日	エ 治様の原語 成、治様の原語 関さ扱った情報 めたりすること。	ウ 活し言葉の* お子の発育ので表すや8 打造ので表する。	イ 円分の名との 様人を用格にする 経道の展開を考え	ア 目的や場に を決め、様々な え合う内容を使	効用について協	アー変社会との記	オー当用の仕方や出典の示 りいて理解を深め使うこと	エ 情報の妥当! 解を深め使うこと	で 指摘の仕方く	解すること。 イ 信別の情報と	が様7巻キ ム	カー比喩、利用、 述べ方や終曲的は	オ 文, 話, 文章の について理解するこ	エ 実社会におい に必要な語句の[適や特色、用法] 文章の中で使う。 かにすること。	ウ 寮用漢字の記 文や文章の中で6	イ 話し音菜と8を踏まえ、正確3続しきなどに記述し、使うこと。	ア・言葉には、『 を理解すること。	温	数材	学年(
************************************	C. 文章や国家を 例が対象がら、内 と章の精液や論理 らとともに、自分	と踏まえて、内容 反抗を基に的確に	の文章の特長や	などの表現の仕方 S応じて書かれて を整えたり、最み	2種花が設備に対 た方を考えるとと マグの株質の手も	の旧群が得られるよう。 重要皮などを考えて、) こと。	はおけて、別年的に基礎の根面有名		、 考えを広げた 5、 任規、依況に 5万分機関の出し	を受けて自分の 素機の仕方を引 を構っ仕方を引	特別を消まえて可 機器を効果的に決 されるように表質	750番に住むるよ 5とともに、他手 6-8年と、別の参	9や場に応じて、実社会の中: 様々な親点から情報を収集。 9習を検討すること。	を塗めること。	おりを考えるさ	が出典の示しが、 の使うこと。	た合成者性の形は	#すること。 作語の仕方を指揮し使うこと。	-8/Lanc	2と実施と実施と	近れておけなから	の別気的な相立 501と	へで延伸したり表記を指すとともに 記を指すとともに とび表記の仕方な ことを通して、語	あるに観れ、主な をうこと。	をまごはの特徴が 、のかりやする にした表現や言葉	 研媒や形材を支え 	具体的な言語活動	(配当時間)	学年(1年):週2単位
当成がものは置への別値を深めるとともに、生生に対なって活用に難しみ自己を引とさせ、別が国の に対なって活用に難しみ自己を引とさせ、別が国の 日認が気の担よっせとしての目前をもち、目談を振り で治費や社会に関わるうとする態度を奏う。	イ 目的にかいて、文単や日本などに含まれている 信報を担立に関係付けながら、内容や書き手の意図 を保護したり、文章の構成や資理の選択などについ て評価したりするとともに、自分の考えを学めること。	文章の鍾振を踏まえて、内容や唱成、論唱の居 どにつって叙述を基に的確に覚え、 変音や要点 据すること。	保護を捉え音した	文本、当年などの表現の仕方を工夫すること。 目的や意図に応じて書かれているかなどを確か で、文章全年を整えたり、読み手からの別言など	7 日分の考えや整体が必請に受わるよう。禁患の 同し万令説明の任力を考えるとされば、文章の類談 ら、今は、ほのかどの基準の仕れるアニキキストア	被み半の阻害が得られるよう。諸国の風景。6 分量や重要収収などをおえて、文章の美収や原理 法すること。			総選を決策し、"老某を試けだり開めだりしな姿 適合いの日的。怪無、状況に応じて、表現や追 ど語合いの仕方や結論の出し方を工夫するこ	資準の原料を手持しながら置き、認め外容や機、 、設備の原料、表現の行力を存在するとともに、 き取った情報を整備して自分の考えを広げたり楽 たりすること。	近し言葉の物質を消まえて近したり、場の状況 じて貫きや機器を効果的口用いたりするなど、 の理解が得られるよう口表現を工夫すること。	用分の考えが89歳に世わるより、自分の立場や えを用痕にするとともに、指手の反応を予想して 指の原則を考えるなど、語の構成や原則を工夫す)中から適切な活足 (集, 整理して, 伝		あのは難の対象と	用の仕方や出典の示し方。それらの必要性に 理解を深め使うこと。	業務の東当寺や選番者の呼吸の仕方について開 を選ぎ使うこと。		さと。 例の情報と一般化された情報との対象につい	の関係について話	比喩、利不、言い僚えなどの修辞や、直接的な (万や終曲的な述べ方について理解し使うこと。	文章のが気的な相立て万寸接続の仕方 終すること。	工 ※社会であって配着したり表現したりませんの に必要な保むの選を打すたともに、居むや整備の構 強や体色、用土板が大阪の仕方式とを影響し、数々 大震の中心的・ことを追して、経めを開きに表して 大震の中心的・ことを追して、経めを開き程表を表 かにすること。	常用漢字の読みに慣れ、土な常用漢字を書き、 文章の中で使うこと。	4 話し言葉と書き言葉の情報や役割、表現の信息を発きえ、上頃き、分かりやすき、適切き、販売と を踏まえ、上頃き、分かりやすき、適切き、販売と 振しきなどに到慮した表現や日英悲いについて田貸 し、使うこと。	588885C2	吾活動	寺間)	週2単位
動画辞典①			動風辞典①	V# 02012	動画辞典①		動画辞典①										考査問題/ 動画辞典①		光白回题 光杏問題	加盟卡本	考查問題	考査問題	考査問題/ 動画辞典(I)	考査問題			・ワードハンティ ング①胸回辞典 ・「由文の歯白い 語堂を探して」	(多名) (多名) (多名) (多名) (多名) (多名) (多名) (多名)	4月
動画辞典①			製画権側側	-	動画辞典①		動画辞典①	I								_	考査問題/	-	ル	_	考査問題	考査問題	考査問題/動画辞典①	考査問題			・ワードハンティ ング②歌回辞典 ・「由女の面白い 語彙を探して」	(番6) (新日活形) (番6) (番6)	5月
動画辞典2				_	動画辞典②	動画辞典②		ı									考査問題/ 動画辞典(2	_	ル 対 に に に に に に に に に に に に に	_	考查問題	考査問題	考査問題/動画辞典2	考査問題			- ワードハンティ ング②創画管典 ン・「報語の速にを 考える」	、「アガルとノポ ル」(奈田明) (書5)	6月
動画辞典②			2	_	シ 動画辞典②	動画辞典②		ı									/ 考査問題/ ② 動画辞典(2	_	光	_	考查問題	考査問題	考査問題/	考査問題			・ワードハンティングの動画辞典・「報話の速いを 考える」	「アガルとノボ ル」 (柴田県) (書5)	7月
<u> </u>				9	<u> </u>	<u> </u>		ı									<u> </u>			•							197		8月
ALTへの質F	ALTへの 質問状	ALTへの 質問状						ı				ALTへの質 問状	ALTへの質 閉状				考査問題		た貧回惑 老査問題	1		考査問題	考查問題	考査問題			 適外でも本文の 機関は成り立つ? ・ALTへの側に 収を作って本文の 内容を確認しま う。 	元×る×元 / 「元えない文 化 (原沢伊耶 表) (歳./)	9月
ALTへの質問状ALTへの質問状	ALTへの 質問状	ALTへの 質問状						ı				質 ALTへの質 開状	質 ALTへの 開状				考查問題	_	の			善 考査問題	老在問題	1 考査問題			・語外 構図に ・Aに 気を作 内容を う。	(1) 月光を大化) / 「見えない文 彩 化] (原沢伊郡 表) (法/)	
閉状ALTへの質問も	5 ALTへの 質問状	5 ALTへの 質問状						ı				質 ALTへの質 開状	ALTへの質 ALTへの質 間状 間状				善 考査問題	_	· 水質回過	_		麦麦麦香問題	考查問題	ā 考査問題			・		-
発表原稿/ 発表の様子	71 9				発表原稿					発表原稿	発表原稿/ 発表の様子	質発表原稿			8 H	考查問題	題 考査問題			H		題 考査問題	(65)	五 考查問題	考查問題	考查問題	(の)・微熱の密表形式 つ? の比較「高し分 (回 19」「書を分付」 (の)・水郷・他数何と の連載。 ・「比べ方を比べ も」リスト活用	マイクロディベー (音3+音・画 3)	12月
(イ) 発表原稿/ (子) 発表の様子			話さてと		面	発表原稿		●書くこと	発表原稿/ 発表の様子	稿 発表原稿	発表原稿/ 子 発表の様子	विक	部	福 発表原	(3)	題 考查問題	班 考査問題			(2)		GB#		選 考査問題	善考查問題		4 . 9 . 5 9 .	<- ワールドカフェ・圏 (お3+記・圏 3)	1月
新 発表原稿/ 長子 発表の様子			に関する事)			稿発表原稿		くことに関する事項	8/ 発表原稿/ (子 発表の様子	稿 発表原稿	新子 発表原稿/株子 発表の様子			福先表別	我が国の言	題 考査問題	岩香問題							題 考査問題	港查問題	7	形式 ・複数の発表形式 分 の比較 [活し分 分 の比較 [活し分 付] 対] 書き分付] 対] 書き分付] での・オンラインでの プレゼン	* ワールドカフェ 関 (男3+第・関 3)	2月
続/ 発表原稿/ 検子 発表の様子			●読むことに関する事項(10~20			稿 発表原稿		頁 (30~40	制/ 発表原稿/ k子 発表の様子	稿 発表原稿	高/ 発表原稿/ 兼子 発表の様子			郑志原稿 <mark> 光表原稿 光表原稿 光表原稿 </mark>	我が国の言語文化に関する事項(黄色いマス	題 考査間	題 考査問題			情報の扱い方に関する事項(黄色いマスは) アー主奏と前級のと情報と情報と				題 考査問題	題 考査問題		#80の発表が、#80の発表が、#80の発表がは #は (2017) の2度(301.26) の2度(301.25) #85.91 31 #85.91 11 #85.91 具体的な言語 #85.9884 - 585.9888 - 585.9888 - 685.8	* フールドカフェ 関 (田3+高・間 3)	3月
にわたって3 にわたって3 でおきまさ で名きを出	イ 田的に 森敷を細囲 を発表した を発表した て評価した。	68 SE VI		で、文庫、出口など エ 目的や意図に対 めて、文庫全体を見	ウ 団分の 新しかや説	人能的	ア 日的や 材を決め、 で、 告えた!	1 0 単位時		五 6年の 近 高		4 日分の 考えを回復 著えを回復 高さんご	7 日的や を決め、様 え合う内容	16 (MH につい 0 ~ 3 0 E	する事項 更集るす	20元百年		で担席すること	類すること	2 (黄 (黄) (東)	カー比略、4 述べ方や網	た 大 校 第3かで3	工 実社会に に必要な語句 退や特色、用 文章の中では かにすること			ア 言葉に を担除する			学年
日請求から日信への設議を保めるとともに、5 日かかって設計に関しる自己を向けませ、仮か 日請文化の担い年としての目覚をもち、日はを で名乗や社会に関わるうとする程度を乗り。	30で、文章や国志 二関係付けながら。 1、文章の機能や派 3、文章の機能や派	動類を踏まえて、内 地ので観光を基に的発 こと。	を答まえて、自分の文章の特長や8 りすること。 単 (庁 時間) (黄色し	品別などの表現の仕方を 意刻に応じて書かれてい 合体を整えたり、読み手	自分の考えや事務が影響に使た 方や説明の仕方を考えるととも や体 さながどの幸福の行うる	語み手の理解が得られるよう 分配や重要収などを考えて、 夫すること。	を別に応じて、 天社 とのた情報の要当性 ハことを明確にする	単位時間)(黄色し	を有し、考えを広げ の目的、値数、状況 いの仕方や希腊の仕	成別を子担しながら 成別。 古規の仕方を 教教を修理して自分 こと。	ウ 部し言葉の物談を辞まえて話し に応じて教育や機器を必要的に用いる 相手の確信が合われるように表現を	一門分の考えが別書に使わる 考えを回復にするとともに、指 会性の原因を考えるなど、話の るだと。	- 目的や場に応じて、支社会の中 決め、機々な規点から情報を収集 。合う内容を検討すること。	(理解を深めること 3 (立時間)	。 (黄色いマ:	土方や出典の示し方 と深め使うこと。	日 実施の財出行や国際性の忌義の 素を深め抱られた。	解すること。 推論の仕方を理解し使うこと。	物表と一般化された	色いマス!	利元 言い落えなど 自可な述べ方につい	文。故、文章の効果的な幅立つ いて理解すること。	こおいて短続したり 別の屋を押すととも 別の屋を押すととも 別法及び太郎の仕方 取うことを達して、 たっ	7の記みに乗れ、主 中で筆うこと。	花と書き三葉の存在 E癌さ、分かりやす ・配慮した表現や言	、 認識や思考を支 - と	具体的な言語	教材(配当時	(2年):
53とともに、生涯 向上させ、我が国の をもち、言葉を通し を居を養き。	イ 目的におして、文章や回席などに含まれている 情報を担当に関係付けながら、内容や書き手の京回 を発彰したり、文章の情報や治療の関係などについ て評価したりするとともに、自分の考えを始めること。	・文章の機能を踏まえて、内容や構成、後週の様 状とについて仮述を組上的際に変え、 更当や更 形理すること。	を解まえて、自分の文章の特長や領遷を定え直した りすること。 単 (位)時間) (黄色いマスは評	方を工夫すること。 ているかなどを確か み手からの助言など	自分の考えや事務が影響に何わるよう。 景後の し方や説明の十万を考えるとともに、文重の解析 では、はされどの基項の付えるできまること	原み半の選昇が得られるよう。 議理の策略、信 の分型や重要収などを考えて、 文庫の権政や原料 工夫すること。	1 10 11 3		7 福祉を実有し、考えを成分をり取るとりにあから、適合いの目的、価値、状況に応じて、表現や独行など結合いの生力や影響の出し方を工夫すること。	工 治療の原列を予禁しながら到る。認の人物や構成、治療の原列、表現の行力を存在するとともに、 関き収った情報を提出して自分の考えを同げたり深めたりすること。	詳したり、場の状況 用いたりするなど、 現を工夫すること。	用分の考えが影響に置わるよう。用分の圧縮や えを申慮にするとともに、相手の反応を予想して 指の原因を考えるなど、語の構成や展展を工夫す だが、	の中から直切な活 収集、整旦して、f	(黄色いマ	スは評価対象)	、それらの必要性に	味の仕方について理	Ċ.	800と。 18別の情報と一般化された情報との関係につい	は評価対象) との関係について琴	は他、利元、言い決えなどの修辞や、直接的な ベ方や厳曲のな述べ方について延昇し使うこと。	立て方や姿勢の仕	土 米社会において国際でもり表現したりするかが に決定な原料の国を関すたともに、原列や保保の条 連や物色、用油板が表式の仕方などを顕常し、指々 文庫の中で成立にとを置して、指述を指されまか量 かにすること。	常用変すの読みに 黄れ、土な常用変すを書き、 文章の中で使うこと。	イ 語し自該と書き言葉の信義や炎烈、表現の符色 を確まえ、王義さ、分かりやすぎ、適のさ、敬意と 級しきなどに民義した表現や自該週でについて国際 し、後ろこれ。	える思さがあるこ	語活動 ・湿	時間)	(2年):週1単位
@\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	11 7, 15		平価対象)		26 U	- AL 10	比べ方リスト®	マスは評価対象)	# 45		Pil	4 7 3	27 128	黄色いマスは評価対象)	象)		考査問題		・ 大台回遊		考查問題	考査問題	考查問題	考査問題	- 17 DE		・「比~万を比べ る」リスト作成② 一報級が個人的な 若雑	「水の東西」(L 韓正和) (書4)	4月
@4 z 6.45/31							比べ方リスト®	I						樂			考査問題		・ 大田回恩・ 大田回恩	_	考查問題	考査問題	考查問題	考査問題			・「ビベ方を比べ る」リスト作成(3 ー報報が個人的(5 技能)	「水の東西」(山 崎正和) (書4)	5月
共進点条形達点の 検討WS	共通点 & 相違点の 検討WS	共通点& 相違点の 検討WS						ı														考査問題	考 查問題	考査問題				(東5) (田市成 第)	6月
の 共通点を相違点の 検討WS		共通点& 相違点の 検討WS						ı														考査問題	考查問題	考査問題			0 5] リスト作成(5) - 「生然菜「ある 主、小野菜町の書 作る」と比べて、 「共通点と増産 白」を考える。 - 「キット」ある - 「キット」ある	「本ツトの男子公 名の坂」(田寿改 男)	7,9
。								ı													名言探し		動画辞典③			名言探し	・ワードハンディ ・ング②新国辞典 ・ 土木以子」 の名言を3つ接す		8月
12883-								ı		12867		インタビュー	インタビュー	479Kz	1000000				名質问题	中国	- 20		考查問題	考査問題			47514.	1 (27をA、 7元 がう、記書のスス メ」 (川上未来 王) (武別3)	9月
- 42862-								ı		- 47862-		インタビュー	- インタビュー	- 179Ka					6 宜回思	-86			考查問題	考査問題			· h 5 / 4 * / 4 6	2 1×3をA、37 2 が5、影響のスス メ」 (JILL 未味 子) (前編者)	10月
ーインタビュー								ı		- 4×8E=		- インタビュ	- インタビュー	- 17862					名宜问起	_			15 考查問題	重 考査問題			to ・本道・図書館っ でどんなとこ? ヹ → 「だんの「ぐうぜ	元 「ペラモル、ラエス がう、影響のスス メ」(川上末春 王) (版図3)	11月
発表原稿/ 発表の様子			光表原稿	及 井 西 名					発表原稿/ 発表の様子		発表原稿/ 発表の様子	I	T	一	H.	考查問題	考查問題	老査問題	名置问题	-	考查問題	考查問題	hns	選 考査問題			・業数の発表形式 はっ の比較 情にら け、外部・物数科と イ の連載。 (総合的な研究の 句間)との選集。	ボースターカッフu ス ソが駅後しよう (計3+店・更 2)	12月
/ 発表原稿/ 子 発表の様子			简	_				ı	/ 発表原稿/ 子 発表の様子		/ 発表原稿/ 子 発表の様子			简	8 H	医 考查問題	班 考查問題	題 考査問題	4 6 1 日 田	-86	善考查問題	班 考查問題		班 考查問題				/ U デスターカックロ ソで駅表しよう (計3 + は・画	
√ 発表原稿/(子 発表の様子		2	何						/ 発表原稿/ (子 発表の様子		発表原稿/発表の様子			光 表	8	語 考查問題	超考查問題	題 考査問題	田 名質可屈	-86	善考查問題	田 考査問題		西 考全問題			15式 ・	/3 ボスターセック 5 シで発表しよう り / で発表しよう 2 (表3 + 花・園	2月
%/ 発表原稿/ k子 発表の様子			简 光衣原简	_					8/ 発表原稿/ k子 発表の様子		新 発表原稿/ 終子 発表の様子			泉橺 羌表原稲	-	題 考査問題	過考查問題	題 考査問題	題 名質问题	-	著查問題	題 考査問題		題 考査問題			形式 ・確認の発表形式 分 の比較 [語し分 行 1 小月 [富ま分け] 作と ・外部・他教料と の連腰。 1 ・ [場の特徴] 定の (総合的な研究の 際。 特徴) との途等。	クロ ボスターセッソコ ウ ソロ駅板しよう M (計3+M・M	
中			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						學學		画表			30	2	强	選	础	Ä	3	画	選		盥			# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	B 3 4	-

1 科目概要

	国語 言語文化						履修年次(今年度) 1 年	<u>単位数(今年度)</u> 1 単位	
履修対象 全員必履	前学継続	年からの	<u>次学年での</u> <u>継続履修</u> 有		脇本 将吾				
教材 (出版社)	科書 精選 言語 <u>教材</u>	文化(三省	î堂)						
定期考査の実施 ※ 亦東可能性もり			<u> 末</u> 月上旬あたり		<u>学期中間</u> (10月中旬あたり		学 <u>期期末</u> (12月上旬あたり	<u>学年末</u> ※3年:1月末 他:2月中旬あたり	
※ 多丈可能性のり	※ 変更可能性あり 有		有		有		有	有	
科目の目標 下記の(1)(2)(3)を目標とする。									
知識及	及び技能		思考力、判断	i力、	表現力等	7	学びに向かう力、人間	引性等 (全単元共通)	
(1) 生涯にわたる な国語の知識や技 ともに, 我が国の 理解を深めること る。	したり ばし, う力を げたり	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。				(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わるうとする態度を養う。			
具体的な評価の方法									
定期考査・授業中の言語活動・アウトプットや成果物それぞれで評価。									
知識		<u>思考、判断、表現</u>				主体的に学習に取り組む態度			
定期考査を中心に評価 授業の言語活動を中心に評価 アウトプット・成果物を中心に評価									
担当者から受講上の	担当者から受講上のアドバイス								

2 年間指導計画(※下図参照)

学習時期 (予定)	学 習 単 元	学習単元内の内容のまとまり	備考
4月~5月	言の葉の森に分け入る	「日本語の表記法」	
6月~7月	古文編・古文入門	「古文の世界へ」 『枕草子』「春はあけぼの」	
9月~12月	漢文編・漢文入門	「漢文の世界へ」 「成句・格言を読む」	
1月~3月	近代以降の文章編・短歌と俳句	いくたびも-俳句十六句-	

古典(古文や漢文)をはじめとする文章を「読む」ことが中心となる科目です。

1 科目概要

<u>教 科</u> 科 目		担当者(主)	履修年次(今年度)	単位数(今年度)					
地理歴史	歴史総合	甲斐田 真妃	1 年	2 単位					
履修対象	前学年からの 継続履修 次学年での 継続履修								
全員必履修									

教材(出版社) 教科書 わたしたちの歴史 日本から世界へ(山川出版社)								
地図帳 標準高等地図(帝国書院)								
牟年末								
(3年:1月末								
他 :2月中旬あたり								
有								
(

科目の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、 グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資 質・能力を育成する。

知識及び技能

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

近現代の歴史の変化に関わる事象の 意味や意義、特色などを、時期や年 代、推移、比較、相互の関連や現在と のつながりなどに着目して、概念な どを活用して多面的・多角的に考察 したり、歴史に見られる課題を把握 し解決を視野に入れて構想したりよ る力や、考察、構想したことを効果的 に説明したり、それらを基に議論し たりする力を養う。

学びに向かう力、人間性等 (全単元共通)

近現代の歴史の変化に関わる諸事象 について、よりよい社会の実現を視 野に課題を主体的に追究、解決しよ うとする態度を養うとともに、多面 的・多角的な考察や深い理解を通し て涵養される日本国民としての自 覚、我が国の歴史に対する愛情、他国 や他国の文化を尊重することの大切 さについての自覚などを深める。

具体的な評価の方法

定期考査や授業で使用するプリント、授業での活動(レポート、プレゼン作成、発表、協議等)を評価します。

(レポート・発表・協議)

 知識、技能
 思考、判断、表現
 主体的に学習に取り組む態度

 ・ 定期考査
 ・ 授業中の取組み

 ・ 小テスト
 ・ 授業プリント
 (レポート・発表・協議)

 ・ 授業プリント
 ・ 自己評価、振り返り

担当者から受講上のアドバイス

評価は自分自身の学習の過程や成果を確認するためになされるものです。このことをしっかり確認し、不十分な点があればその後の学習につなげるようにしましょう。そのためにも、返却されたテストやレポート、自己評価などの見直しを徹底しましょう。

学習時期(予 定)	学 習 単 元	学習単元内の内容のまとまり (例)	備考
4月 ~ 7月	近代化と私たち	産業革命、アヘン戦争、開国、市民革命、明治維 新、富国強兵と文明開化、大日本帝国憲法、日清 戦争、日本の産業革命、帝国主義、日露戦争と韓 国併合	
9月 ~ 12月	国際秩序の変化や大衆化と私たち	大衆運動、第一次世界大戦、ロシア革命、社会運動、国際協調、アジアの民族運動、大量生産・大量消費、世界恐慌、ファシズム、第二次世界大戦、冷戦開始	
1月 ~ 3月	グローバル化と私たち	第三世界、冷戦の展開、55 年体制と安保闘争、 高度経済成長の光と影、ベトナム戦争とアメリカ、経済大国、社会主義停滞と新自由主義、冷戦 終結、冷戦後の地域紛争、地域統合、世界と日本 の諸課題	

(1) 単元:近代化と私たち

単元の目標

知識及び技能

- ○諸資料を活用して情報を読み取ったりまとめたりす る技能を習得
- ○18 世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア 各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基 に、18世紀のアジアの経済と社会を理解すること。
- ○産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日 本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理 解する。
- ○18 世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動 向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを 基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。
- ○列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを 基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理 解する。
- ○現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解 する。

思考力、判断力、表現力等

- ○人々の生活や社会の在り方が近代化に伴い変化した ことについて考察するための問いを表現する。
- ○18 世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影 響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその 他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付け たりするなどして、18世紀のアジア諸国における経 済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と 欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表 現する。
- ○産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景と その影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国 とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関 連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国と の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現す
- ○国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題 を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を 比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治 変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多 面的・多角的に考察し、表現する。
- ○帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフ リカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、ア ジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、 相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の 特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考 察し、表現する。
- ○事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、ア ジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、 相互に関連付けたりするなどして、主題について多 面的・多角的に考察し、表現する

観点別評価規準

知識、技能

- ①資料から情報を読み取ったりま とめたりする技能を身に付けて いる。
- ②18 世紀のアジアや日本における 生産と流通、アジア各地域間やア ジア諸国と欧米諸国の貿易など を基に、18 世紀のアジアの経済 と社会を理解している。
- ③産業革命と交通・通信手段の革 新、中国の開港と日本の開国など を基に、工業化と世界市場の形成 を理解している。
- ④18 世紀後半以降の欧米の市民革 命や国民統合の動向、日本の明治 維新や大日本帝国憲法の制定な どを基に、立憲体制と国民国家の 形成を理解している。
- ⑤列強の進出と植民地の形成、日 清・日露戦争などを基に、列強の 帝国主義政策とアジア諸国の変 容を理解している。
- ⑥現代的な諸課題の形成に関わる 近代化の歴史を理解している。

思考、判断、表現

- ①近代化に伴う生活や社会の変容 について考察し、問いを表現して いる。
- ②18 世紀のアジア諸国の経済が欧 米諸国に与えた影響などに着目 して、主題を設定し、アジア諸国 とその他の国や地域の動向を比 較したり、相互に関連付けたりす るなどして、18 世紀のアジア諸 国における経済活動の特徴、アジ ア各地域間の関係、アジア諸国と 欧米諸国との関係などを多面的・ 多角的に考察し、表現している。
- ③産業革命の影響、中国の開港と日 本の開国の背景とその影響など に着目して、主題を設定し、アジ ア諸国とその他の国や地域の動 向を比較したり、相互に関連付け たりするなどして、アジア諸国と 欧米諸国との関係の変容などを 多面的・多角的に考察し、表現し ている。
- ④国民国家の形成の背景や影響な どに着目して、主題を設定し、ア ジア諸国とその他の国や地域の 動向を比較したり、相互に関連付 けたりするなどして、政治変革の

主体的に学習に取り組む態度

①近代化と私たちについて、よりよ い社会の実現を視野に課題を主 体的に追究しようとしている。

- 特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。
- ⑤帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。
- ⑥事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現している。

内容のまとまり I 学習時期 (予定) 配当時間 教材範囲 教科書 18~63ページ 開国から日露戦争へ 7~9月 16時間 観点別学習評価 学習活動、学習のねらい、学習形式等 知、技 思、判、表 備考 態度 規準 評価方法 規準 評価方法 規準 評価方法 近代化への問い (1) 1 (1)18世紀の世界とアジア (2)(3)(2) (1) 23 産業革命 36 1 2 アヘン戦争と日本 25 (1) 日本の開国 23 2 1 日本開国期の国際情勢 (2)(3)(2)(3)(1) まとめ ②③ 定期考査 開国後の日本社会 ②③ 定期考査 (1) 記述 ④⑤ 授業プリ 市民革命と国民統合 1 4 課題集 授業中の 明治維新 45 ント 4 まとめ 1 活動 富国強兵と文明開化 40(1) 4 日本の明治初期の外交 (4)(5)(4)(5)(1) 大日本帝国憲法の制定 45 45 (1) 日本の産業革命と日清戦争 (4)(5)56 (1)

56

(5)(6)

1

45

(4)(5)

帝国主義

日露戦争と韓国併合

単元の目標

知識及び技能

- ○資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を 身に付ける。
- ○第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、 ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナ ショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、 総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。
- ○大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。
- ○世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策など を基に、国際協調体制の動揺を理解する。
- ○第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、 冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本 国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを 基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社 会への復帰を理解する。
- ○現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大 衆化の歴史を理解する。

思考力、判断力、表現力等

- ○国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。
- ○第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- ○第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、 主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比 較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大 戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面 的・多角的に考察し、表現する。
- ○経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- ○第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- ○事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、ア ジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、 相互に関連付けたりするなどして、主題について多 面的・多角的に考察し、表現する。

観点別評価規準

知識、技能

- ①資料から情報を読み取ったりま とめたりする技能を身に付けて いる。
- ②第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。
- ③大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。
- ④世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。
- ⑤第二次世界大戦の展開、国際連合 と国際経済体制、冷戦の始まりと アジア諸国の動向、戦後改革と日 本国憲法の制定、平和条約と日本 の独立の回復などを基に、第二次 世界大戦後の国際秩序と日本の 国際社会への復帰を理解してい

思考、判断、表現

- ①国際秩序の変化や大衆化に伴う 生活や社会の変容について考察 し、問いを表現している。
- ②第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び大平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。
- ③第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。
- ④経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどし

主体的に学習に取り組む態度

①国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。

⑥現代的な諸課題の形成に関わる 国際秩序の変化や大衆化の歴史 を理解している。

- て、各国の世界恐慌への対応の特 徴、国際協調体制の動揺の要因な どを多面的・多角的に考察し、表 現している。
- ⑤第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦後の世界に与に与いた影響、第二次世界大戦後した影響などに着目して、主題をしたりに着して、主題を地域の大きなどして、第二次世界とりであるなどして、第二次世界大戦での性格と大況や人々の生活、日本と大況や人々の生活、第二次世界大戦での社会状況や人々の生活、時期係などを多面的・多角的に考察し、表現している。
- ⑥事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現している。

学習時期 (予定) 教材範囲 内容のまとまり I 配当時間 教科書 64~115 ページ 世界の一等国から連合軍の占領下へ 9~12月 17時間 観点別学習評価 学習活動、学習のねらい、学習形式等 態度 備考 知、技 判、表 規準 評価方法 規準 評価方法 規準 評価方法 国際秩序の変化や大衆化への (1) 1 1 問い 大衆運動の芽生え (2) (2) (1) 第一次世界大戦 2 (2) (1) 第一次世界大戦と日本 2 2 (1) 2 ロシア革命とその影響 3 (1) 社会運動の広がり 3 3 1 国際協調 (2)(6)(3)(6)(1) アジアの民族運動 3 3 (1) まとめ 定期考查 定期考查 大量生産・大量消費社会 (3)(6) (3)(6) (1) 記述 授業プリ 課題集 世界恐慌 (4) (4) (1) 授業中の ント まとめ 独裁勢力の台頭 4 4 (1) 活動 日本のアジア侵出 (4) (4) (1) 第二次世界大戦 (5) (5) (1) 第二次世界大戦と日本 (5)(5) (1) 第二次世界大戦の終結 (5) 1 (5) 戦後国際秩序 (5)(5) (1) (5) (5) (1)冷戦の始まり 日本の戦後改革と日本国憲法 (5) (5) (l) 日本の独立 (5) (5)

単元の目標

知識及び技能

- ○資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を 身に付けること。
- ○脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域 紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管 理などを基に、国際政治の変容を理解する。
- ○西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済と その波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。

思考力、判断力、表現力等

- ○グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察 し、問いを表現すること。
- ○地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する
- ○冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と 影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目 して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向 を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷 戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による 生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表 現する。

観点別評価規準

知識、技能

- ①資料から情報を読み取ったりま とめたりする技能を身に付けて いる。
- ②脱植民地化とアジア・アフリカ諸 国、冷戦下の地域紛争、先進国の 政治の動向、軍備拡張や核兵器の 管理などを基に、国際政治の変容 を理解している。
- ③西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解している。
- ④石油危機、アジアの諸地域の経済 発展、市場開放と経済の自由化、 情報通信技術の発展などを基に、 市場経済の変容と課題を理解し ている。
- ⑤冷戦の終結、民主化の進展、地域 統合の拡大と変容、地域紛争の拡 散とそれへの対応などを基に、冷 戦終結後の国際政治の変容と課 題を理解している。
- ⑥歴史的経緯を踏まえて、現代的な 諸課題を理解している。

思考、判断、表現

- ①グローバル化に伴う生活や社会 の変容について考察し、問いを表 現している。
- ②地域紛争の背景や影響、冷戦が各 国の政治に及ぼした影響などに 着目して、主題を設定し、日本と その他の国や地域の動向を比較 したり、相互に関連付けたりする などして、地域紛争と冷戦の関 係、第三世界の国々の経済政策の 特徴、欧米やソヴィエト連邦の政 策転換の要因などを多面的・多角 的に考察し、表現している。
- ③冷戦が各国経済に及ぼした影響、 地域連携の背景と影響、日本の高 度経済成長の背景と影響などに 着目して、主題を設定し、日本と その他の国や地域の動向を比較 したり、相互に関連付けたりする などして、冷戦下の世界経済や地 域連携の特徴、経済成長による生 活や社会の変容などを多面的・多 角的に考察し、表現している。
- ④アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定した影響などに着目して、主題を設定動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。
- ⑤冷戦の変容と終結の背景、民主化 や地域統合の背景と影響、地域紛 争の拡散の背景と影響などに着 目して、主題を設定し、日本とそ の他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするな どして、冷戦終結後の国際政治の 特徴と日本の役割などを多面的・ 多角的に考察し、表現している。

主体的に学習に取り組む態度

①グローバル化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。

⑥事象の背景や原因、結果や影響な どに着目して、日本とその他の国 や地域の動向を比較し相互に関 連付けたり、現代的な諸課題を展 望したりするなどして、主題につ いて多面的・多角的に考察、構想 し、表現している。

内容のまとまり I 配当時間 教材範囲 学習時期 (予定) 教科書 116~159 ページ 冷戦下の世界から現代へ 1~3月 16時間

	観点別	<u> </u>					
学習活動、学習のねらい、学習形式等		知、技		、判、表		態度	<u>備考</u>
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
グローバル化への問い	1		1		1		
第三世界の登場	2		2		1		
冷戦の固定化と「雪どけ」	2		2		1		
冷戦の展開	2		2		1		
55 年体制と安保闘争	2		2		1		
高度経済成長の光と影	36		36		1		
ベトナム戦争とアメリカ	2	定期考査	2	定期考査	1	まとめ	
経済構造の変化	4	足朔与宜 授業プリ	3	定别与宜 課題集	1	記述	
日本の経済大国化	34	12 未ノリント	34	味恩果	1	授業中の	
アジアの経済成長	4		4	460	1	活動	
社会主義の停滞と新自由主義	34		34		1		
冷戦の終結	5		5		1		
冷戦後の地域紛争	5		56		1		
地域統合	5		56		1		
現代世界の諸課題	6		6		(1)		
日本の諸課題	6		6		1		

1 科目概要

	教 科 科目 数 学	数学丨	<u>担当者</u> 平山 光一	<u>履修年次(今年度)</u> 1 年	単位数 (今年度) 3 単位
	履修対象	前学年からの 継続履修次学年での 継続履修			
	全員必履修	- 有			
ļ	至貝 化 復修	- 月			

教材 (出版社)	教科書	新 高校の数	学I(数研出版)			
<u> 教初 (田)[[[]]</u>	副教材	f出版)				
	1 学期	中間	1 学期期末	2 学期中間	2学期期末	学年末
定期考査の実施	*	5月中旬あたり	※7月上旬あたり	※10月中旬あたり	※12月上旬あたり	※3年:1月末
※ 変更可能性あり	,					他 : 2月中旬あたり
次 多史可能性の	,	有	有	有	有	有

科目の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

数と式、2次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的に表現・処理する技能を身に付ける。

思考力、判断力、表現力等

命題の条件や結論に着目し、数や式 を多面的にみたり目的に応じて適切 に変形したりする力、数量関係に着 目し、事象を的確に表現してその特 徴を表、式、グラフを相互に関連付 けて考察する力を養う。 学びに向かう力、人間性等 (全単元共通)

数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、学習した内容を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養う。

具体的な評価の方法

3つの観点について、それぞれ次に示す方法で評価する。

・定期考査および授業中の小テスト
 ・学期末の計算テスト
 ・定期考査および授業中の小テスト
 ・定期考査および授業中の小テスト
 ・提出物の提出状況やアンケートへの回答状況
 ・小テストの受査状況
 ・学習教材や成果物の管理状況
 ・学習内容等の振り返り状況

担当者から履修上のアドバイス

- 1 授業には、「教科書」「『数学 I 』専用ノート」「ポイントノート」「タブレット端末」「筆記用具」が必要です。
- 2 授業中に指名された際、発言や板書等の正誤は、一切評価の対象になりません。積極性重視です。
- 3 教科書には、中学校数学の振り返りの内容が多く収録されています。自分1人の学習でも取り組みやすいものですので、しっかり勉強し、わからないところは遠慮なく担当者に質問しましょう。予習は必要ありません。
- 4 ポイントノートには直接書き込みで解き、必ず○つけや解き直しまで済ませて提出しましょう。高評価のためのポイントは、正答の数ではなく、自分の数学力向上のために取り組もうとしたり、解けなかった問題を解けるようになろうとする姿勢がみられるかです。評価の程度は生徒本人に通知しません。解き終わった問題の解き直しを希望する場合は、担当者のポイントノートのコピーを差し上げるので、いつでも申し出てください。
- 5 提出できない状態だったり、無断で提出期限を過ぎた提出物は一切受け付けません。また、提出物への取り組み状況に不誠実さが見受けられた場合(例えば、解けない問題の解答を黒で写して赤で○をつけ、自力で解けたかのようにみせた)、未提出とみなすことがあります。そのことは生徒本人に通知しません。

学習時期 (予定)	学 習 単 元	学習単元内の内容のまとまり	備考
年度当初~10月上	第1章 数と式	第1節 数と式の計算	この科目は次学年で継続
旬		第2節 1次不等式	履修されるので、「第3章
10月中旬~2月中	第2章 2次関数	第1節 2次関数のグラフ	図形と計量」「第5章 デ
旬		第2節 2次関数の値の変化	ータの分析」は2年次で学
2月下旬~年度末	第4章 集合と命題	集合と命題	習する。

(1) 単元:第1章 数と式

単元の目標

知識及び技能

- ・数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすること。
- ・2次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深めること。
- ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、 1次不等式の解を求めること。

思考力、判断力、表現力等

- ・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすること。
- ・不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察すること。

観点別評価規準

知識、技能

- ①整数や小数の他、累乗の形の数、 分数を含む四則計算ができる。
- ②文字式の積を適切にかき表せる。
- ③整式周辺の数学用語を理解し、係 数や次数が答えられる。
- ④同類項を理解し、これをまとめられる。また、降べきの順、昇べきの順を理解している。
- ⑤多項式の加法、減法ができる。
- ⑥指数法則を用いた計算ができる。
- ⑦多項式の乗法ができる。
- ⑧展開の公式を理解し、これを用いて計算できる。
- ⑨因数分解の公式を理解し、これを 用いて計算できる。
- ⑩根号を含む計算、分母の有理化ができる。
- ⑪絶対値を理解し、その計算ができる。
- ⑩有理数が細かく分類できる。
- ⑪絶対値が求められる。
- (4)1次方程式が解ける。
- 15値の範囲が図示できる。
- 161次不等式が解ける。
- ⑪連立不等式が解ける。

思考、判断、表現

- ①複雑な計算の過程を論理的に書き示すことができる。
- ②言葉で示された数量の関係が数式で書き表せる。
- ③整式を見て、用いるべき因数分解 の公式が判断できる。
- ④たすきがけを用いた因数分解ができる。
- ⑤展開や因数分解の工夫について、 言葉で説明できる。
- ⑥平方根の意味を説明できる。
- ⑦数の分類について説明できる。
- ⑧移項の意味を説明できる。
- ⑨不等号の反転する場合について 説明できる。
- ⑩連立不等式の解を示すための数 直線の図がかける。

主体的に学習に取り組む態度

※提出物の提出状況やアンケート への回答状況、学習内容等の振り 返り状況等により、日常的に評価 する。

内容のまとまり I 学習時期 (予定) 配当時間 教材範囲 教科書 P. 8~39 第1節 数と式の計算 年度当初~1学期末 3 6 時間 観点別学習評価 学習活動、学習のねらい、学習形式等 思、判、表 熊度 知、技 備考 評価方法 規準 規準 評価方法 評価方法 1. 計算の基本 ① 定期考査お ① 定期考査お ②③ よび小テス 2. 単項式と多項式 よび小テス 3. 多項式の加法と減法 **(4)(5)** 4. 多項式の乗法 6(7)5. 展開の公式 (7)(8)(9) 34 6. 因数分解 7. 展開、因数分解の工夫 (9) (3)(5)(10)(11) 8. 根号を含む式の計算 (6) 9. 実数 (12)(13)7 教材範囲 内容のまとまり Ⅱ 学習時期 (予定) 配当時間 教科書 P. 40~51 第2節 1次不等式 2学期当初~10月上旬 10時間 観点別学習評価 学習活動、学習のねらい、学習形式等 思、判、表 備考 態度

規準

(9)

(9)

(10)

評価方法

定期考査お

よび小テス

1

規準

評価方法

教科書P. 50は授

業で取り扱わない。

評価方法

定期考査お

よび小テス

規準

(14)

(15)

(15)(16)

(17)

(2) 単元:第2章 2次関数

1. 1次方程式

3. 不等式の解

2. 不等式

単元の目標

知識及び技能

- ・2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。
- ・2次関数の最大値や最小値を求めること。
- ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解すること。また、2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めること。

思考力、判断力、表現力等

・2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして 多面的に考察すること。

観点別評価規準

知識、技能

- ①関数の変数に値を代入し、適切に 計算できる。
- ②1次関数のグラフの傾き、切片を 理解している。
- ③関数の表が完成できる。
- ④関数のグラフがかける。
- ⑤ 2 次関数 (x²の係数が 1) が平方 完成できる。
- ⑥ 2 次関数の最大値、最小値が求め られる。
- ⑦因数分解を用いて 2 次方程式が 解ける。
- ⑧2次方程式の解の公式を理解している。
- ⑨解の公式を用いて 2 次方程式が 解ける。
- ⑩2次方程式の解と、2次関数のグラフとx軸の共有点の関係を理解している。
- ⑪2次不等式が解ける。

思考、判断、表現

- ①関数とは何か、説明できる。
- ②1次関数のグラフの平行移動を 説明できる。
- ③2次関数のグラフに付随してか くことが求められる各点の座標 が正しく書ける。
- ④ 2次関数(x²の係数が1以外)が平方完成できる。
- ⑤2次方程式を解くために、因数分解と解の公式のいずれを用いるべきか、根拠をもち選択できる。
- ⑥2次関数のグラフとx軸が接したり、共有点をもたない場合の根拠が説明できる。
- ⑦2次関数のグラフとx軸の共有点が2個未満である場合の2次不等式の解が正しく答えられる。

主体的に学習に取り組む態度

※提出物の提出状況やアンケート への回答状況、学習内容等の振り 返り状況等により、日常的に評価 する。

配当時間 内容のまとまり I 学習時期 (予定) 教材範囲 第1節 2次関数のグラフ 9月下旬~12月上旬 教科書 P. 58~76 3 0 時間 観点別学習評価 学習活動、学習のねらい、学習形式等 備考 判、表 知、技 評価方法 規準 規準 規準 評価方法 評価方法 (l) (1)(2)2. 1次関数のグラフ ②③ 定期考査お 定期考査お よび小テス (4) よび小テス 2次関数のグラフ(1) 34 | 3 \mathbb{L} 3. 4. 2次関数のグラフ(2) (4)(5)(3)(4)学習時期 (予定) 教材範囲 内容のまとまり Ⅱ 配当時間 第2節 2次関数の値の変化 12月中旬~2月中旬 17時間 教科書 P. 77~93 観点別学習評価 学習活動、学習のねらい、学習形式等 思、判、表 態度 備考 評価方法 評価方法 規準 規準 規準 評価方法 1. 2次関数の最大値、最小値 定期考査お 定期考査お 教科書P. 82は授 **(4)(6)** よび小テス よび小テス 業で取り扱わない。 2. グラフと2次方程式 (7)(8)(6) (9)(10)3. グラフと2次不等式 (4)(10)7 (11)

(3) <u>単元:第4章 集合と命題</u>

単元の目標

知識及び技能

集合と命題に関する基本的な概念を理解すること。

思考力、判断力、表現力等

・集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を 証明すること。

観点別評価規準

知識、技能

- ①集合を理解し、適切に表現でき
- ②集合周辺の数学用語とそれを表 す記号が理解できる。
- ③ベン図の意味や有用性を理解し ている。
- ④命題の真偽が理解できる。
- ⑤命題の真偽が調べられる。
- ⑥仮定と結論を理解している。
- ⑦命題の真偽と、集合の包含関係が 結び付けて理解できる。
- ⑧反例や否定が理解できる。
- ⑨十分条件、必要条件、必要十分条 件を理解している。
- ⑩命題の逆、対偶が示せる。
- ⑪命題の真偽と、その対偶の真偽の 一致性が理解できる。
- ②背理法を理解している。

思考、判断、表現

- ①部分集合,真部分集合の意味や違 いが説明できる。
- ②命題とは何か、説明できる。
- ③命題の真偽が判断できる。
- ④真である命題中の各条件が、十分 条件、必要条件、必要十分条件の いずれであるか判断できる。
- ⑤十分条件、必要条件、必要十分条 件となり得る条件を適切に判断 できる。

主体的に学習に取り組む態度

※提出物の提出状況やアンケート への回答状況、学習内容等の振り 返り状況等により、日常的に評価 する。

学習時期 (予定) 内容のまとまり I 配当時間 教材範囲 生合と命題 2月下旬~年度末 教科書 P. 136~146 12時間

秋川自 1,100 140	ѫᆸᢗ	- PH 402	271 1 10	1 2 門間				
	観点別学習評価	観点別学習評価						
学習活動、学習のねらい、学習形式等	<u>知、技</u>	思、判、表	<u>態度</u>	<u>備考</u>				
	規準 評価方法	規準 評価方法	規準 評価方法					
1. 集合	①② 定期考査お	① 定期考査お						
	③ よび小テス	よび小テス						
2. 命題と集合	45 }	23 ト						
	67							
	8							
3. 必要条件と十分条件	910	45		教科書 P. 145「背				
	(1)(2)			理法」を用いた命題				
				が真であることの証				
				明は、具体的には取り				
				り扱わない。				
]) 1/An-1.0 1 0				

科目概要

履修年次(今年度) 教 科 科目 担当者(主) 単位数 (今年度) 科学と人間生活 川野 文寛 年 2 単位 理科 1 前学年からの 次学年での 履修対象 継続履修 継続履修

高等学校 科学と人間生活 (第一学習社) 教科書 教材 (出版社)

副教材

全員必履修

1 学期期末 1 学期中間 2学期中間 2学期期末 学年末 ※3年:1月末 他:2月中旬あたり ※5月中旬あたり <u>**</u>7月上旬あたり ※10月中旬あたり ※12月上旬あたり 定期考査の実施 ※ 変更可能性あり 有 有 有

科目の目標

- ○自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関 する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高め る。
- ○科学技術の発展が、今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解させる。
- ○身近な自然の事物・現象および日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活との かかわりについて認識を深めさせる。
- ○自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これ からの科学と人間生活とのかかわり方について考察させる

知識及び技能

- ○科学技術の発展の人間生活への貢 献, 身近な事物・現象を通しての現 代の人間生活と科学技術の関連性 についての知識を身につけ、これ からの科学技術と人間生活のあり 方について理解する。
- ○身近な事物・現象に関する観察,実 験の技能を習得するとともに、そ れらを科学的に探究する方法を身 につける。

思考力、判断力、表現力等

- ○身近な事物・現象の中に問題を見 出し,観察,実験,調査などを行っ て得た結果について, 科学的に思 考し、判断する。
- ○科学的思考・判断から導き出した 自らの考えを的確に表現する。

学びに向かう力、人間性等(全単元共通)

○身近な事物・現象に関心や探究心 をもち, 科学的な視点・考察力を養 うとともに, 科学技術に対する関 心を高める態度を身につける。

具体的な評価の方法

3つの観点について、それぞれに示す方法で評価する。

知識、技能 思考、判断、表現

・ 小テスト

・考査対策のプリント

• 学期末考査

- ・考査対策のプリント
- 学期末考査

・ 小テスト

主体的に学習に取り組む態度

- 実験のレポート
- 授業プリント

担当者から受講上のアドバイス

- 1 授業は主に授業プリントと板書・スライドを用いて進める。
- 授業内容は中学校ですでに学習したものも多く掲載されている。中学校の学習を思い出すために中学校の教科 書を参考することも1つの勉強方法である。
- 小テストや考査対策のプリントは、主に家庭学習用で用いる。解答を一緒に配布するので丸付け・採点とやり 直しを済ませて提出すること。この時正答数は成績に関係はせず、提出の有無を評価する。
- 提出物の期限を過ぎての提出は減点する。

学習時期 (予定)	学 習 単 元	学習単元内の内容のまとまり	備考
年度当初~6月上旬	第1章 物質の科学	1節 材料とその利用	
6月下旬~9月上旬	第2章 生命の科学	2節 微生物とその利用	
9月上旬~11月上旬	第3章 熱や光の科学	2節 光の性質とその利用	
11月下旬~1月下旬	第4章 地球や宇宙の科学	1節 自然景観と自然災害	
2月上旬~年度末	第5章		

(1) 単元:第1章 物質の科学

単元の目標

知識及び技能

- ①プラスチックの構成粒子、原子や共有結合を理解する。
- ②熱可塑性樹脂,熱硬化性樹脂の性質の違いを理解する。
- ③特別な機能をもつプラスチックについての知識を持つ。
- ④金属の一般的な性質や金属結合について理解する。
- ⑤鉄、銅、アルミニウムの性質と違いについて理解する。
- ⑥金属の精錬のしくみを理解する。
- ⑦金属のさびを防止する手法について理解する。
- ⑧資源の再利用法について理解する。
- ⑨プラスチックを加熱し, 熱に対する性質の違いを調べる。

思考力、判断力、表現力等

- ①プラスチックの性質の違いや化学的な構造上の特徴から、 用途に違いがあることを考察する。
- ②金属の性質の違いから、用途や利用方法について判断する。
- ③プラスチック、金属、ガラスの化学的性質にもとづいて、再 利用の方法について表現する。

観点別評価規準

知識、技能

- 有結合を理解している。
- ②熱可塑性樹脂,熱硬化性樹脂の性質 の違いについて理解している。
- ③特別な機能をもつプラスチックにつ いての知識をもっている。
- ④金属の一般的な性質や金属結合につ いて理解している。
- ⑤鉄,銅,アルミニウムの性質と違いに ついて理解している。
- ⑥金属の精錬のしくみを理解してい
- ⑦金属のさびを防止する手法を理解し ている。
- ⑧資源の再利用法を理解している。
- ⑨プラスチックを加熱し,熱に対 する性質の違いを調べることが できる。

思考、判断、表現

- ①プラスチックの構成粒子、原子や、共 | ①プラスチックの性質の違いや化学的 | ①人間生活に不可欠なプラスチックに な構造上の特徴から, 用途に違いがあ ることを考察することができる。
 - ②金属の性質の違いから、用途や利用方 法について判断できる。
 - ③プラスチック,金属,ガラスの化学的 性質にもとづいて, 再利用の方法につ いて表現できる。

主体的に学習に取り組む態度

- ついて興味をもち, それらの性質, 化 学構造, 用途について理解しようと する。
- ②身のまわりの金属に関心を示し,その 種類, 化学的性質, 日常生活への利用 方法について知識を習得しようとす
- ③プラスチック,金属,ガラスの再利 用について, 意欲的にその方法と必 要性について理解しようとする。

内容のまとまり I 教材範囲 学習時期 (予定) 配当時間 教科書 p16~41 1節 材料とその利用 年度当初~6月上旬 12時間

	観点別学習評価			
学習活動、学習のねらい、学習形式等	知、技	思、判、表	態度	<u>備考</u>
	規準 評価方法	規準 評価方法	規準 評価方法	
1プラスチックの特徴	小テスト	小テスト		
	1	1		
2プラスチックの分類と用途	小テスト	小テスト		
	2 • 3	2 • 3		
3 さまざまなプラスチック	小テスト	小テスト		
	4	4		
4 金属と人間生活	小テスト	小テスト		
	5	5		
5 金属とその製錬	小テスト	小テスト		
	6 · 7	6 · 7		
6 金属のさびと合金	小テスト	小テスト		
	8	8		

7 資源の再利用	小テスト	小テスト	
	9 • 1 0	9 • 1 0	

(2) <u>単元:第2章</u> 生命の科学

単元の目標

知識及び技能

- ①身のまわりには多様な微生物が存在することを理解する。
- ②微生物の発見の科学的な経緯について理解する。
- ③生態系内の微生物の役割について理解する。
- ④発酵の現象と、食品の製造への利用について理解する。
- ⑤微生物が, 抗生物質やワクチンの製造に利用されることを 過去の研究者の業績を通して理解する。
- ⑥微生物の利用の広がりについて理解する。
- ⑦パンに生えたカビ,空気中の微生物,市販の納豆などの身 近なところから微生物を観察する。
- ⑧森林内や河川での微生物の分解作用を実験で確かめる。

思考力、判断力、表現力等

- ①自然界のどのような場所にどのような微生物が生息しているか, どのような役割を果たしているかを考察する。
- ②発酵と腐敗の違いを判断でき,発酵が人間生活に役立って いることを説明する。
- ③抗生物質やワクチンの製造に、微生物が役立っていること を考察する。
- ④将来の人間生活に対する微生物の利用の可能性について 考察する。

観点別評価規準

知識、技能

- ①身のまわりには多様な微生物が存在 ②自然界のどのような場所にどのよう することを理解している。 な微生物が生息しているか, どのよう
- ②微生物の発見の科学的な経緯につい て理解している。
- ③生態系内の微生物の役割について理 解している。
- ④発酵の現象と、食品の製造への利用 について理解している。
- ⑤微生物が、抗生物質やワクチンの製造に利用されることを過去の研究者の業績を通して理解している。
- ⑥微生物の利用の広がりについて理解している。
- ⑦パンに生えたカビ,空気中の微生物, 市販の納豆などの身近なところから 微生物を観察できる。
- ⑧森林内や河川での微生物の分解作用 を実験で確かめることができる。

思考、判断、表現

- ①自然界のどのような場所にどのよう な微生物が生息しているか、どのよう な役割を果たしているかを考察する ことができる。
- ②発酵と腐敗の違いを判断でき,発酵が 人間生活に役立っていることを説明 できる。
- ③抗生物質やワクチンの製造に、微生物 が役立っていることを考察できる。
- ④将来の人間生活に対する微生物の利用の可能性について考察できる。

主体的に学習に取り組む態度

- ①身のまわりに生息する微生物に関心 を抱き,自然界にみられるさまざまな 微生物について理解しようとする。
- ②微生物の発見の研究史に関心をもち, 意欲をもって理解しようとする。
- ③発酵食品に興味を抱き,発酵の現象 や,発酵の応用について理解しようと する。
- ④日常生活への微生物の応用に興味を もち、医薬品への利用や、これからの 微生物の利用について思考しようと する。

<u>教材範囲</u>	内容のまとまり I	学習時期 (予定)	配当時間
教科書 p90~109	微生物とその利用	6月下旬~9月上旬	11時間

	観点別学習評価			
学習活動、学習のねらい、学習形式等	<u>知、技</u>	思、判、表	態度	<u>備考</u>
	規準 評価方法	規準 評価方法	規準 評価方法	
1 身近な微生物	小テスト	小テスト		
	1	1		
2 微生物の発見	小テスト	小テスト		
	2	2		
3生態系内の微生物	小テスト	小テスト		
	3 • 4	3 • 4		
4 微生物の利用	小テスト	小テスト		
	5	5		
5 食品と微生物	小テスト	小テスト		
	6 · 7	6 · 7		
6 医薬品と微生物	小テスト	小テスト		
	8	8		

フ独生物の利用の広がり	ルニット	ユニット	
1 7 微生物の利用の広がり	- ・ ハ ア ス ト l ・	- ! 小アストー !	
. 182 - 13713 - 147	1 7 7 1	* / ' '	
	0	0	
	1 9 I	9	ı
	J	3	

(3) 単元:第3章 熱や光の科学

単元の目標

知識及び技能

- ①光の速さを調べようとした過去の実験を通して、光の速さ | ①光の反射・屈折・分散・散乱の現象について、科学的に考察 について理解する。
- ②光の反射・屈折・分散・散乱・回折・干渉・偏光について 理解する。
- ③電磁波の種類と性質に関する知識を習得する。
- ④情報通信や医療などへの電磁波の利用に関する知識を持
- ⑤さまざまな光のスペクトルを観察し、連続スペクトルと線 スペクトルとに区分けする。

思考力、判断力、表現力等

- する。
- ②光の回折や偏光について、科学的に思考する。
- ③赤外線と紫外線の違いについて説明でき、電磁波の有効性 と危険性について考察する。

観点別評価規準

教材範囲

知識、技能

- 験を通して、光の速さについて理解 している。
- ②光の反射・屈折・分散・散乱・回折・ 干渉・偏光について理解している。
- ③電磁波の種類と性質に関する知識を 習得している。
- ④情報通信や医療などへの電磁波の利 用に関する知識をもっている。
- ⑤さまざまな光のスペクトルを観察 し、連続スペクトルと線スペクトル とに区分けすることができる。

教科書 p130~145

6電磁波の種類とその利用

思考、判断、表現

- ①光の速さを調べようとした過去の実 ┃①光の反射・屈折・分散・散乱の現象に ┃ ①身のまわりの光に興味をもち,光の反 ついて、科学的に考察できる。
 - ②光の回折や偏光について, 科学的に思 考できる。
 - ③赤外線と紫外線の違いについて説明 でき、電磁波の有効性と危険性につい て考察できる。

主体的に学習に取り組む態度

- 射・屈折・分散・散乱・回折・干渉・ 偏光などの現象について理解しよう とする。
- ②赤外線や紫外線に関心を抱き,人間生 活に利用されている電磁波の知識を 習得しようとする。
- ③日常生活に利用される電磁波につい て意欲的に学習し,情報通信,医療な どへの電磁波の利用について理解し ようとする。

9月上旬~11月上旬 9 時間

配当時間

学習時期 (予定)

		, - , , ,	- ,				
	観点別	1 学習評価					
学習活動、学習のねらい、学習形式等		知、技		、、判、表		態度	<u>備考</u>
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1光の発生と速さ		小テスト		小テスト			
		1		1			
2 光の反射・屈折		小テスト		小テスト			
		2		2			
3 光の分散		小テスト		小テスト			
		3		3			
4 光の散乱		小テスト		小テスト			
		4		4			
5 光の回折・干渉・偏光		小テスト		小テスト			
				E	1		

小テスト

6 · 7

<u>内容のまとまり I</u>

光の性質とその利用

小テスト

6 · 7

(4) 単元:地球や宇宙の科学

単元の目標

知識及び技能

- ①日本列島と、その付近のプレートの動きを理解する。
- ②日本の火山活動や、火山の噴火と火山の形について理解す る。
- ③火山災害と防災について理解する。
- ④日本列島の地震活動と地震の発生のしくみを理解する。
- ⑤地震災害と防災について理解する。
- ⑥河川や海水のはたらきによって形成される地形について 理解する。
- ⑦気象災害と防災について理解する。
- ⑧縦断曲線を作成し、河川のはたらきについて調べる。

思考力、判断力、表現力等

- ①日本列島のさまざまな景観は、地球内部のエネルギーと太 陽から放射されるエネルギーの作用によって形成されたも のであることを考察する。
- ②マグマの性質や噴火の様式によって火山の形が決まること を説明する。
- ③おもにプレートの活動によって地震がおこることを考察す
- ④河川や海水のはたらきによって多様な景観ができることを 考察する。
- ⑤災害がおこるしくみから、防災のためにどのような取り組 みが必要かを考察する。

観点別評価規準

知識、技能

- ①日本列島と, その付近のプレートの動 | ①日本列島のさまざまな景観は、地球内 きを理解している。
- ②日本の火山活動や,火山の噴火と火山 の形について理解している。
- しくみを理解している。
- ⑤地震災害と防災を理解している。
- ⑥河川や海水のはたらきによって形成 される地形について理解している。
- ⑦気象災害と防災を理解している。

おわますな! III

⑧縦断曲線を作成し,河川のはたらきに ついて調べることができる。

思考、判断、表現

- 部のエネルギーと太陽から放射され るエネルギーの作用によって形成さ れたものであることを考察できる。
- ③火山災害と防災について理解してい ②マグマの性質や噴火の様式によって 火山の形が決まることを説明できる。
- ④日本列島の地震活動と地震の発生の 3おもにプレートの活動によって地震 がおこることを考察できる。
 - な景観ができることを考察できる。
 - ⑤災害がおこるしくみから, 防災のため にどのような取り組みが必要かを考 察できる。

内容のましまり I

主体的に学習に取り組む態度

- ①周囲にみられる多様な景観に興味を もち, その成因や日本列島の特徴, プ レートの動きを理解しようとする。
- ②日本の火山活動に関心をもち,火山の 噴火や火山の形のでき方について理 解しようとする。
- ③地震に関心をもち,地震の発生するし くみを理解しようとする。
- ④河川や海水のはたらきによって多様 | ④周囲の水環境に興味をもち,河川や海 水のはたらきによってつくられる地 形を理解しようとする。
 - ⑤火山災害や地震災害, 気象災害に関心 を抱き、これらのおこるしくみや防災 について理解しようとする。

型水味期

学羽時期 (予宁)

<u>教材範囲</u>	谷のまとまり 1		字督時期(予定)	<u>配当時間</u>
教科書 p146~167	1節 自然景	観と自然災害	11月中旬~	~3月 10時間
	観点別学習評価			
学習活動、学習のねらい、学習形式等	知、技	思、判、表	態度	<u>備考</u>
□ 1日本列島のなりたち	規準評価方法小 テ ス ト	規準 評価方法 小 テ ス ト	規準 評価方法	
	1	1		
2火山活動と地表の変化	小テスト	小テスト		
7 37 11237 2 27 7 3 7 2	2	2		
3火山災害と防災	小テスト	小テスト		
	3	3		
4 地震活動と地表の変化	小テスト	小テスト		
	4	4		
5 地震災害と防災	小テスト	小テスト		
	5	5		
6水のはたらきと地表の変化	小テスト	小テスト		
	6 · 7	6 · 7		
7 気象災害と防災	小テスト	小テスト		
	8	8		

1 学期中間

<u>※</u>5月中旬あたり

令和6年度(2024年度)シラバス

1 科目概要

<u>教 科</u> 保健体育	<u>科目</u>	体育		担当者(主)	<u>) </u> 淳	履修年次 1	<u>(今年度)</u> 年	<u>単位数(今年度)</u> 3 単位
履修対象 全員以	· 公履修	前学年からの 継続履修 -	<u>次学年での</u> <u>継続履修</u> 有					
教材(出版社)	教科書 副教材							

2学期中間

※10月中旬あたり

有

1 学期期末

<u>**</u>7月上旬あたり

科目の目標

<u>定期考査の実施</u> ※ 変更可能性あり

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。

知識及び技能

運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

学びに向かう力、人間性等 (全単元共通)

学年末

※3年:1月末 他:2月中旬あたり

2学期期末

※12月上旬あたり

運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。

具体的な評価の方法

生徒や地域の実態に即して定めた目標や内容に照らして、その実現状況を下記の3観点ごとに評価する。

「十分満足できる」: A 「おおむね満足できる」: B

「努力を要する」: C

知識、技能

運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって 運動を豊かに継続するための理論に ついて理解しているとともに、目的 に応じた技能を身に付けている。

思考、判断、表現

自己や仲間の課題を発見し、合理 的、計画的な解決に向けて、課題に 応じた運動の取り組み方や目的に応 じた運動の組み合わせ方を工夫して いるとともに、それらを他者に伝え ている。

主体的に学習に取り組む態度

運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。

担当者から受講上のアドバイス

体を動かすことを通して、体力の高まりや技能の獲得、課題の解決を図り、運動の特性や魅力を味わうとともに、公正、協力、責任、参画、共生などの社会的態度を身に付ける。

- (1) 運動に親しむ
- (2) 健康の保持増進・体力の向上を図る
- (3) 粘り強く取り組む
- (4) 自己や他者の課題解決に協力して自主的に取り組む

学習時期 (予定)	学 習 単 元	学習単元内の内容のまとまり	備	考
年度当初~5月上旬	体つくり運動・体育理論	体ほぐしの運動		
5月上旬~5月中旬	陸上競技・新体力テスト種目	短距離走・リレー		
5月中旬~学期末	球技	バレーボール		
9月上旬~9月下旬	体つくり運動・ダンス・体育理論	体ほぐしの運動・ダンス		
10月~11月中旬	球技	サッカー		
11月中旬~学期末	陸上競技	長距離走		
学期始め~1月下旬	体つくり運動	実生活に生かす運動の計画		
2月~学期末	球技	バスケットボール・ソフトボール		

(1) 単元: 陸上競技

単元の目標

知識及び技能

- ①記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わえるよう にする。
- ②技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解する。
- ③各種目特有の技能を身に付ける。

思考力、判断力、表現力等

- ①動きなどの自己や仲間の課題を発見する。
- ②合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。
- ③自己の考えたことを他者に伝える。

観点別評価規準

知識、技能

- ①記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わえるようにしている。
- ②技術の名称や行い方、体力の高 め方、運動観察の方法などを理解 している。
- ③各種目特有の技能を身につけて いる。

思考、判断、表現

- ①動きなどの自己や仲間の課題を 発見している。
- ②合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。
- ③自己の考えたことを他者に伝えることができる。

主体的に学習に取り組む態度

- ①自主的に取り組むとともに勝敗な どを冷静に受け止め、ルールやマナ ーを大切にしようとしている。
- ②自己の責任を果たそうとしている。
- ③一人一人の違いに応じた課題や挑 戦を大切にしようとしている。
- ④健康・安全を確保しようとしている。

<u>教材範囲</u> なし	対容のまとまり I 短距離走・リレー、長距離走					期(予定) 上旬、1 1 <i>。</i> 旬	月中	<u>配当時間</u> 24時間	
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別当	学習評 <u>価</u> <u>知、技</u> 評価方法	<u>)</u> 規準	思、判、表 評価方		規準	<u>態度</u> 評価方法	備考	
基礎技術の確認	2	記録、観察	1)2)	記録・	観察	2	観察		
応用技術の確認	13	記録、観察	1)2)	記録、	観察	3	観察		
目標タイムとペースの確認	1	記録、観察	3	記録、	観察	1)4)	観察	計測	、ICT記録

単元の目標

知識及び技能

- ①勝敗を競う楽しさや喜びを味わえるようにする。
- ②技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解する。
- ③作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。

思考力、判断力、表現力等

- ①知識や技能を得たり生かしたりしながら、攻防などの 自己やチームの課題を発見する。
- ②知識や技能を得たり生かしたりしながら、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。
- ③知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己や仲間 の考えたことを他者に伝える。

観点別評価規準

知識、技能

- ①勝敗を競う楽しさや喜びを味わ うことができるよう、フェアなプ レイを大切にしている。
- ②技術の名称や行い方、体力の高 め方、運動観察の方法、試合の行い 方を理解している。
- ③特性に応じたゲームを展開する ための作戦に応じた技能や仲間と 連携した動きを身につけている。

思考、判断、表現

- ①攻防などの自己やチームの課題 を発見している。
- ②合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。
- ③自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

主体的に学習に取り組む態度

- ①自主的に取り組むとともにフェ アなプレイを大切にしようとして いる。
- ②自己の責任を果たそうとすることや作戦などについての話合いに 貢献しようする。
- ③一人一人の違いに応じたプレイ などを大切にしようとしている。
- ④健康・安全を確保して学習に自主 的に取り組もうとしている。

<i>足がした場とと为についている</i> 。					的に取り組もりとしている。			
<u>教材範囲</u> なし		<u>とまり I</u> ドドミントン・	バルー	ボール	i —	『(予定) こ旬~7月ヿ	7句	<u>配当時間</u> 18時間
74.0		観点別学習評価					(H)	IOHI
学習活動、学習のねらい、学習形式等		知、技		<u>思、判、表</u> 規準 評価方法		<u>態度</u> 規準 評価方法		:
基礎技術の確認	2	記録、観察	12	記録、観察	2	観察	スキ	テルテスト
応用技術の確認	3	記録、観察	12	記録、観察	3	観察	スキ	テルテスト
ゲーム	13	記録、観察	3	記録、観察	1)4)	観察		
グループデジタル班ノート	23	入力確認	12	入力確認	34	入力確認	ΙC	CT活用
<u>教材範囲</u>	内容のま	とまり Ⅱ			学習時期	月 (予定)		配当時間
なし		サッカー・ソ	フトボ	ール	9月中旬~11月中			2 1 時間
						旬		
	観点別	別学習評価						
学習活動、学習のねらい、学習形式等	_ ,	知、技 思、判、表			態度 備考			!
基礎技術の確認	規準 ②	評価方法 記録、観察	規準 ①②	評価方法 記録、観察	規準 ②	評価方法 観察	フナ	テルテスト
応用技術の確認	3	記録、観察	1)2	記録、観察	3	観察		<u>「ルノヘト </u> テルテスト
ゲーム	13	記録、観察	3	記録、観察	14	観察	7.9	
グループデジタル班ノート	23	入力確認	1)2	入力確認	34	入力確認	Ι.	 C T 活 用
		ノヘノノル田中心	102	ノヘノナが田中心	(a) (4)	ノヘノノが世前心	1 (2 1 10 /円
数tt 绘画	内容のま	! とまり Ⅲ			学 羽	<u>□</u> 月 (予定)		配当時間
<u>教材範囲</u> なし なし	内谷のよ	<u>⊂ぉり Ⅲ</u> バスケット	ボール	ì.	l 	<u>**(アル)</u> 「旬~3月ヿ	マ石	18時間
\(\frac{1}{2}\)	4H F F		. 41, /	<i>V</i>	1万1	的 5 万 1	H)	1 0 时间
学習活動、学習のねらい、学習形式等		<u>別学習評価</u> 知、技	Ī	 思、判、表	T	 態度	備考	
<u> </u>	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	<u> </u>	=
基礎技術の確認	2	記録、観察	12	記録、観察	2	観察	スキ	テルテスト
応用技術の確認	3	記録、観察	12	記録、観察	3	観察	スキ	テルテスト
ゲーム	13	記録、観察	3	記録、観察	14	観察		
グループデジタル班ノート	23	入力確認	12	入力確認	34	入力確認	IC	CT活用

(3) 単元: 体つくり運動

単元の目標

知識及び運動

- ①体を動かす楽しさや心地よさを味わえるようにす
- ②運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを 理解する。
- ③健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適し た運動の計画を立て取り組む。

思考力、判断力、表現力等

①自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。

観点別評価規準

知識、運動

- ①体を動かす楽しさや心地よさを 味わえるようにしている。
- ②運動を継続する意義、体の構造、 運動の原則などについて理解している。
- ③健康の保持増進や体力の向上を 目指し、目的に適した運動の計 画を立て取り組んでいる。

思考、判断、表現

①自己や仲間の課題を発見し、合理的 な解決に向けて運動の取り組み方 を工夫するとともに、自己や仲間の 考えたことを他者に伝えている。

主体的に学習に取り組む態度

①体つくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとすること、話し合いに貢献しようとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。

<u>教材範囲</u> なし	N容のまとま 体に	<u>り I</u> まぐし運動					图時期(予定 月、 9 月、		<u>配当</u> 6	時間 時間
学習活動、学習のねらい、学習形式等	<u>観点別学</u> 知 規準	<u>習評価</u> 、運 評価方法	<u>思</u> 規準	、判、 評值	<u>表</u> 五方法	規準	<u>態度</u> 評価方法	 <u>備考</u>		
体ほぐしのための運動 道具を活用した運動		観察	1)	観察		1	観察			
運動の組み立て		観察	1	観察		1	観察	発表		
<u>教材範囲</u> なし <u>内</u>		<u>容のまとまり Ⅱ</u> 実生活に生かす運動の計画				<u>学習時期(予定)</u> 4月、9月、1月			<u>配当</u> 9	時間 時間
学習活動、学習のねらい、学習形式等		観点別学習評価 知、技 思			思、判、表 <u>態度</u> □ 評価方法 規準 評価方法			態 <u>度</u> 評価方法	備考	
ラジオ体操第2	123	記録、観	察 ①	23	記録、	観察	123	観察	発表	

(4) 単元: 体育理論

単元の目標

知識

思考力、判断力、表現力等

①スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。

①スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。

観点別評価規準

ている。

<u>知識</u> ①スポーツの文化的特性や現代の

スポーツの発展について理解し

思考力、判断力、表現力等

①スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。

学びに向かう力、人間性等

①スポーツの文化的特徴や現代の スポーツの発展についての学習 に自主的に取り組もうとしてい る。

数材範囲内容のまとまり I学習時期 (予定)配当時間大修館書店 現代保健体育
体育編スポーツの文化的特性や現代のスポー
ツの発展4月・5月、9月
6 時間

	観点別	<u>別学習評価</u>					
学習活動、学習のねらい、学習形式等	規準	<u>知</u> 評価方法	規準	<u>思、判、表</u> 評価方法	規準	<u>態度</u> 評価方法	備考
スポーツの歴史的発展と多様	1	記録、観察	1)	記録、観察	1	観察	
な変化							
現代のスポーツの意義や価値	1	記録、観察	1	記録、観察	1	観察	
スポーツの経済的効果と高潔	1	記録、観察	1)	記録、観察	1	観察	確認テスト
さ							
スポーツが環境や社会にもた	1	記録、観察	1	記録、観察	1	観察	
らす影響							

1 学期中間

※5月中旬あたり

令和6年度(2024年度)シラバス

1 科目概要

<u>教 科</u> 保健体育	<u>科 目</u>	保健		担当者(主 山本	<u>)</u> 導	 <u>(今年度)</u> 年	<u>単位数(今年度)</u> 1 単位
履修対象		<u>前学年からの</u> 継続履修	<u>次学年での</u> 継続履修 有				
教材 (出版社)	数科書 大修館 副教材	書店 現代高等	· 保健体育			 	

2学期中間

※10月中旬あたり

科目の目標

<u>定期考査の実施</u> ※ 変更可能性あり

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。

1 学期期末

<u>**</u>7月上旬あたり

有

る力を養う。

知識及び技能
①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに技能を身につけるようにする。

思考力、判断力、表現力等 ①知識や技能を得たり生かしたりしながら、健康について自他や社会の 課題を発見し、合理的、計画的な解 決に向けて思考し判断するととも に、目的や状況に応じて他者に伝え 学びに向かう力、人間性等(全単元共通) ①生涯を通して自他の健康の保持増進やそれを支える環境作りを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

学年末

※3年:1月末 他:2月中旬あたり

有

具体的な評価の方法

生徒や地域の実態に即して定めた目標や内容に照らして、その実現状況を下記の3観点ごとに評価する。

「十分満足できる」: A 「おおむね満足できる」: B 「努力を要する」: C

<u>知識、技能</u> ①定期考査(小問)

①定期考査(記述) ②発問ワークプリント 主体的に学習に取り組む態度

①授業への主体性、学習態度

②提出物

2学期期末

※12月上旬あたり

③学習教材の管理

担当者から受講上のアドバイス

現代社会における健康・安全の問題は多様化しており、国民全てにとって心身の健康の保持増進が大きな課題となっている。「保健」では健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を体系的に学習することにより、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培う。

思考、判断、表現

学習時期 (予定)	学 習 単 元	学習単元内の内容のまとまり	備考
年度当初~ 4月下旬		健康の考え方	
5月上旬~ 6月下旬		生活習慣病などの予防と回復	
6月下旬~ 9月上旬	現代社会と健康	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	
9月上旬~10月上旬		精神疾患の予防と回復	
10月上旬~11月下旬		現代の感染症とその予防	
11月下旬~ 1月下旬	安全な社会生活	安全な社会づくり	
1月下旬~ 3月下旬	女主は江云生伯	応急手当	

(1) 単元: 現代社会と健康

単元の目標

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

し、その解決を目指した活動を通して、理解を深める。 を思考し判断するとともに、それらを表現する。

現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見|健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法|

観点別評価規準

知識、技能

や社会の課題を発見し、その解

決を目指した活動を通して、理

思考、判断、表現

①現代社会と健康について、自他 | ①健康や安全に関する原則や概念に着 | ①現代社会と健康についての学 目して解決の方法を思考し判断する とともに、それらを表現している。

主体的に学習に取り組む態度

習に主体的に取り組もうとし ている。

解を深めようとしている。				
教材範囲 大修館書店 現代高等保健体育 保健編 P 6 ~ P 1 1	<u>内容のまとまり I</u> 健康の考 :	え方	学習時期 (予定) 年度当初~	<u>配当時間</u> 5月上旬 3 時間
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価知、技規準評価方法	思、判、表 規進 評価:	方法 規準	<u>備考</u> 評価方法
講義 ワークプリント	① 観察	① 観察 ① 記録、	観察	<u>察</u> 定期考査
<u>数材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育保健編P12~P27	<u>内容のまとまり Ⅱ</u> 生活習慣病などの	予防と回復	学習時期(予定) 5月中旬~	6月上旬 配当時間 7 時間
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価知、技規準評価方法	<u>思、判、表</u> 規準 評価		<u>備考</u> 評価方法
講義 ワークプリント	① 観察 ① 記録、観察	① 観察 ① 記録、	① 観 観察	定期考査
<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育 保健編P28~P35	<u>内容のまとまり Ⅲ</u> 喫煙、飲酒、薬物	乱用と健康	学習時期(予定) 6月中旬~	9月中旬 配当時間 4 時間
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価 知、技 規準 評価方法	思、判、表 規準 評価		<u>備考</u> 評価方法
講義 ワークプリント 調べ学習 (グループ)	① 観察 ① 記録、観察 ① 記録、観察	① 観察 ① 記録、 ① 記録、		察 定期考査 録、観察 発表
<u> </u>	<u>内容のまとまり IV</u> 精神疾患の予	防と回復	学習時期(予定) 9月上旬~1	0月中旬 配当時間 4 時間
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価知、技規準評価方法	思、判、表 規準 評価	方法 規準	<u>備考</u> 評価方法
講義 ワークプリント	① 観察○ 記録、観察	① 観察 記録、	観察	<u>案</u> 定期考査
<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育 保健編 P 4 4 ~ P 5 8	<u>内容のまとまり V</u> 現代の感染症と	その予防	学習時期 (予定) 10月下旬~	1 1 月 中 旬 6 時間
学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価 知、技 規準 評価方法	<u>思、判、表</u> 規準 評価		<u>備考</u> 評価方法
講義 ワークプリント	① 観察 ① 記録、観察	① 観察 ① 記録、	① 観	

(2) <u>単元:</u> 安全な社会生活

単元の目標

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見 し、その解決を目指した活動を通して、安全な社会生 活について理解を深めるとともに、応急手当を適切に する<u>。</u>

安全な社会生活について安全に関する原則や概念に着 目して危険の予測やその回避の方法を考え、表現する。

観点別評価規準

知識、技能

①安全な社会づくりには、環境の 整備とそれに応じた個人の取り 組みが必要であること。交通事 故を防止するには、車両の特性 の理解、安全な運転や歩行など 適切な行動、自他の生命を尊重 する態度、交通環境の整備が関 わること。交通事故には補償を

はじめとした責任が生じること

を理解している。

②適切な応急手当は、傷害や疾病 の悪化を軽減できること。応急 手当には、正しい手順や方法が あること。応急手当は、傷害や疾 病によって身体が時間の経過と ともに損なわれていく場合があ ることから、速やかに行う必要 があることを理解しているとと もに、心肺蘇生法などの応急手 当を適切に行う技能を身に付け ている。

思考、判断、表現

①安全な社会生活について、安全に 関する原則や概念に着目して危険 の予測やその回避の方法を考えて いるとともに、表現している。

主体的に学習に取り組む態度

①安全な社会生活についての学習 に主体的に取り組もうとしてい

<u>教材範囲</u> 大修館書店 現代高等保健体育 保健編 P 5 9 ~ P 6 7	<u>内容のまとまり I</u> 安全な社会づくり			. —	_{時期(予定)} 1 月下旬~ 1	. 月中旬	<u>配当時間</u> 5 時間			
学習活動、学習のねらい、学習形式等	規準					<u>態度</u> 評価方法	<u>備考</u>	<u>備考</u>		
講義 ワークプリント	1	観察 記録、観察	1	観察 記録、観察	1)	観察	定期考査			
<u>数材範囲</u>	内容の) <u>まとまり II</u> 応急	手当			<u>時期(予定)</u> 1 月下旬〜学	全年末	<u>配当時間</u> 6 時間		
学習活動、学習のねらい、学習形式等	<u>観点別</u> 規準	<u>l学習評価</u> 知、技 評価方法		思 <u>、判、表</u> 評価方法	規準	<u>態度</u> 評価方法	<u>備考</u>			
講義	② 観察 ② 記録、観察 ③ 記録、観察			1	① 観察 定期考査		查			
ワークプリント (実習)	2	記録、観察観察	2	観察	2	観察				

1 科目概要

<u>教</u> 科	書道丨	<u>担当者(主)</u> 脇本 将吾	<u>履修年次(今年度)</u> 1 年	単位数(今年度) 2 単位
履修対象	前学年からの 継続履修次学年での 継続履修			
全員必履修				

教材 (出版社)	教	科書 光村図書 書	I			
<u> 教物 (田瓜江)</u>	副	<u>教材</u> なし				
		1 学期中間	1 学期期末	2 学期中間	2学期期末	<u>学年末</u>
定期考査の実施		※5月中旬あたり	※7月上旬あたり	※10月中旬あたり	※12月上旬あたり	※3年:1月末
※ 変更可能性あり	n					他 : 2月中旬あたり
へ 友又り配住の	9	-	-	-	-	-

科目の目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅 広く関わる資質・能力を育成することを目指す

知識及び技能

書の表現の方法や形式,多様性などについて幅広く理解するとともに,書写能力の向上を図り,書の伝統に基づき,効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、 作品や書の伝統や文化の意味や価値 を考え、書の美を味わい捉えたりす ることがきるようにする。

学びに向かう力、人間性等 (全単元共通)

書のよさや美しさを感受し、意図に 基づいて構想し表現を工夫したり、 作品や書の伝統や文化の意味や価値 を考え、書の美を味わい捉えたりす ることがきるようにする。

具体的な評価の方法

作品7:平常点3で各学期評価する。

学年成績は1・2・3学期の成績の平均とする。

知識、技能

- ①授業への取り組みの様子。
- ②小テストの成績。
- ③提出作品の成績。

思考、判断、表現

- ①授業への取り組みの様子。
- ②小テストの成績。
- ③提出作品の成績。

主体的に学習に取り組む態度

- ①授業への取り組みの様子。
- ②小テストの成績。
- ③提出作品の成績。

担当者から受講上のアドバイス

1学年次のみの履修のため、3年間の芸術の成績が確定します。作品に対して丁寧に臨書と鑑賞を行うことを求めます。

学期	月	学習項目	学習内容 (ねらい)	評価対象
	4	オリエンテーション	・姿勢や執筆、用具、用材について理解し、書の 学習方法を理解する。 ・古典の臨書を通して技法を学び、表現に生かす 学習方法について理解する。	1~3
1	5	文字の造形を学ぶ (楷書) ・書体の変遷	・漢字の書体の変遷と、各書体の字形や線質の特徴について理解する。 ・古典と筆者について基礎的な知識を身につけ	1~3
	6	・九成宮醴泉銘・孔 子廟堂碑・顔氏家廟 碑の鑑賞と臨書	る。 ・鑑賞・臨書を通して、字形や線質、点画の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得する。	
	7	蘇峰展出品作品制作	・古典の技法の違いを理解し、それぞれの書風を 区別して表現できている。・古典の特徴を理解 し、比較しながら鑑賞を深める。	
	8			
	9	文字の造形を学ぶ (行書) ・蘭亭序の鑑賞と臨 書	・古典と筆者の書道史的価値を理解する。 ・鑑賞・臨書を通して、行書の用筆・運筆の技法 を習得する。 ・鑑蔵印の意味について理解させる。	1~3
2	10	文化祭展示作品制作	・学習してきた古典を元に、表現の構想から完成 に至る過程を工夫し、自己表現する。	①~③
	11	文字の造形を学ぶ (刻字)	・完成後の表現効果を考慮して作品を構想する。 ・刻字制作の手順を理解し、運刀などに関する知 識や技法を習得する。	1~3
	12	文字の造形を学ぶ (仮名の書) ・仮名の成立と発達	・時代による仮名文字の推移や、平仮名と変体仮名の違いを理解している。 ・鑑賞・臨書を通して、仮名の用筆・運筆の技法	①~③
	1	・高野切第三種の鑑 賞と臨書	を習得する。 ・古筆の表現を元に連綿の法則を理解させる。	
3	2	創作する(漢字仮名 交じりの書)	・題材から連想するイメージの違いや表現の工夫により、多様な表現が生まれることを理解する。 ・表現のねらいに基づいて構想を練り、書体・書風・紙面構成・用具・用材の知識や技能を生かし	1~3
	3		て工夫して表現する。 ・作品を鑑賞し、表現の工夫とその効果を感じ取る。	

科目概要

担当者(主) 履修年次(今年度) 単位数 (今年度) 教 科 科目 英語コミュニケーション丨 井上 典仁 年 2 単位 外国語 1 前学年からの 次学年での 履修対象

有

有

継続履修 継続履修 全員必履修

Amity English Communication I (開隆堂) 教科書 教材 (出版社) 新ユメタン① (アルク)、 REPEAT 英文法ドリル (数研出版) 副教材 2学期中間 学年末 1 学期中間 1 学期期末 2学期期末 ※6月下旬 ※10月中旬 ※11月下旬 ※2月中旬 定期考査の実施 ※ 変更可能性あり

有

科目の目標

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書く ことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表 現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

英語の音声や語彙、表現、文法など の理解を深めるとともに、実際のコ ミュニケーションにおいて活用でき る技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

コミュニケーションを行う目的や場 面、状況などに応じて、日常的な話 題や社会的な話題について、英語で 情報や考えなどの概要や要点、話し 手や書き手の意図などを的確に理解 したり、これらを活用して適切に表 現したり伝えあったりすることがで きる力を養う。

学びに向かう力、人間性等(全単元共通)

有

英語の背景にある文化に対する理解 を深め、聞き手、読み手、話し手、 書き手に配慮しながら、主体的、自 律的に英語を用いてコミュニケーシ ョンを図ろうとする態度を養う。

具体的な評価の方法

3つの観点について、それぞれ次に示す方法で評価する。

知識、技能

思考、判断、表現

- 定期考查
- ・授業中の単元テスト
- ・授業中の単語テスト
- 音読テスト

- 定期考查
- ・授業中の単元テスト
- ・インタビューテスト
- ・パフォーマンステスト
- ・パフォーマンステスト
- ・授業中の学習態度や積極性
- 提出物の提出状況
- ・学習教材や成果物の管理状況

主体的に学習に取り組む態度

担当者から受講上のアドバイス

・毎回持参するもの

教科書、単語帳(新ユメタン⑩)、ドリル(REPEAT 英文法ドリル)、紙ファイル、タブレット(必要な時)

辞書について

電子、紙、タブレット端末の辞書機能など、スマホ以外なら、いずれも使用可能です。図書室から紙辞書を 借りたら、自宅等に持ち帰らないよう、授業後は速やかに責任を持って返却しましょう。

単元テストについて

教科書の Lesson が終わるごとに定着を図るための単元テストを行います。事前に連絡します。

単語テストについて

単語帳から出題します。10点満点で、基本的に毎時間授業の最初にタブレットを使って実施します。 範囲は見開き1ページ分で、UNIT01からスタートします。第1回のテストはp58-59が範囲です。 授業で学習する時間は十分とれませんので、自宅等で付属の CD を活用してテストに臨んでください。

・音読テストとインタビューテストについて

教科書の Lesson が終わるごとに実施します。教科書やワークシートの本文を見ながら音読します。 音読の評価の観点は、①声の大きさ②明瞭さ③スムーズさ④正確さ⑤まとまりを意識しているかです。 その後に続けて本文の内容について英語で質問をしますので、英語で答えてください。

・パフォーマンステストについて

教科書の各 Lesson の最後にある「ACTION」について単元で学んだことを活かして3~5文の文章にまとめ 発表をします。

その他

不定期に授業中に配付するワークシートは授業で使用後、必ず紙ファイルに綴じて確実に保管しましょう。 各定期考査後に紙ファイルを集めますので、日頃からプリント類の整理整頓を心がけましょう。 授業中以外の連絡はタブレットのクラスルームで連絡をしますので、頻繁にチェックをお願いします。

学習時期 (予定)	学 習 単 元	学習単元内の内容のまとまり	備考	
年度当初~6月中旬	GET READY	数字、文字、品詞	この科目は次学年で継続	
1学期期末考査(6/27	履修されるので、Lesson 6			
7月上旬~7月下旬	Lesson 1	be動詞・一般動詞の現在形	~Lesson10及びFOCUS+	
夏季休業日			3、COMMUNICATE+2(「比	
9月上旬~9月下旬	Lesson 2	be 動詞・一般動詞の過去形	較」「現在完了」「受動態」	
10月上旬~11月上旬	Lesson 3	進行形/助動詞	「分詞」関係代名詞」「関	
2学期期末考査(11/2	9~12/2)		係副詞」「仮定法」)は2年	
11月中旬~12月下旬	FOCUS + 1	b e 動詞/一般動詞/進行形/助動詞	次で学習する。	
冬季休業日				
1月中旬~2月上旬	Lesson 4	不定詞		
学年末考査(2/14~2)	/17)			
2月下旬~3月下旬	Lesson 5	動名詞		

(1) 単元:Lesson 1 The Beautiful Scenery

単元の目標

知識及び技能

現在のことを表現する言い方(be 動詞・一般動詞の現 在形)を理解し、さまざまな場面で活用すること。

思考力、判断力、表現力等

お気に入りの場所について、紹介すること。

観点別評価規準

知識、技能

①聞くこと

be 動詞・一般動詞の現在形を理解 し、それを基に、英文の内容を聞 き取る技能を身につけている。

②読むこと

be 動詞・一般動詞の現在形を理解 し、それを基に、国内外のすてき な景色について書かれた文章の 内容を読み取る技能を身につけ ている。

③話すこと〈やり取り〉 好きな写真やお気に入りの場所 について、be 動詞・一般動詞の現 在形を用いて伝え合う技能を身

につけている。 ④話すこと〈発表〉

> お気に入りの場所等について、be 動詞・一般動詞の現在形を用いて 紹介する技能を身につけている。

⑤書くこと

自分のお気に入りの場所等につ いて、be 動詞・一般動詞の現在形 を用いて書く技能を身につけて いる。

思考、判断、表現

①聞くこと

他者がお気に入りの場所につい て話しているのを聞いて、その概 要や要点を捉えている。

②読むこと

お気に入りの場所や行ってみた い場所についてまとめるために、 書かれた文章の概要を捉えてい る。

③話すこと〈やり取り〉

相手にわかってもらえるように、 好きな写真やお気に入りの場所 について、基本的な語句や表現を 用いて伝え合っている。

④話すこと〈発表〉

聞き手に伝わるように、自分のお 気に入りの場所や行ってみたい 場所について、基本的な語句や表 現を用いて紹介している。

⑤書くこと

読み手に伝わるように、自分のお 気に入りの場所や行ってみたい 場所について、基本的な語句や表 現を用いて書いている。

主体的に学習に取り組む態度

①聞くこと

他者がお気に入りの場所につい て話しているのを聞いて、その概 要や要点を捉えようとしている。

②読むこと

お気に入りの場所や行ってみた い場所についてまとめるために、 書かれた文章の概要を捉えよう としている。

③話すこと〈やり取り〉

相手にわかってもらえるように、 好きな写真やお気に入りの場所 について、基本的な語句や表現を 用いて伝え合おうとしている。

④話すこと〈発表〉

聞き手に伝わるように、自分のお 気に入りの場所や行ってみたい 場所について、基本的な語句や表 現を用いて紹介しようとしてい る。

⑤書くこと

読み手に伝わるように、自分のお 気に入りの場所や行ってみたい 場所について、基本的な語句や表 現を用いて書こうとしている。

教材範囲 内容のまとまり I 学習時期 (予定) 配当時間 年度当初~7月下旬 教科書 P. 12~19 世界の絶景、be 動詞・一般動詞の現在形 20時間 観点別学習評価 学習活動、学習のねらい、学習形式等 思、判、表 態度 備考 <u>知、技</u> 評価方法 規準 評価方法 評価方法 世界の景色について音読とQ 単元テスト 単元テスト &A, T/F 音読テスト 音読テスト 本文確認、インターネット検索 ②③ 単元テスト (3) 単元テスト 単元テスト 日本の景色について音読とQ (2)単元テスト 単元テスト &A, T/F 音読テスト 音読テスト 本文確認、インターネット検索 (l) 23 3 単元テスト 単元テスト 単元テスト FOCUS, SKILLS, TRY 3 単元テスト 3 単元テスト Lesson 本文全体内容の再確認 (1)(2)(2)(5)単元テスト 単元テスト (3)(5)単元テスト (3)(5)お気に入りについて発表 (4) 4 (4) パフォーマ パフォーマ パフォーマ ンステスト ンステスト ンステスト

(2) <u>単元:Lesson2 My Best Friend</u>

単元の目標

知識及び技能

過去のことを表現する言い方(be 動詞・一般動詞の現在形)を理解し、さまざまな場面で活用すること。

思考力、判断力、表現力等

大切にしている人などについて、紹介すること。

観点別評価規準

知識、技能

①聞くこと

be 動詞・一般動詞の過去形を理解 し、それを基に、英文の内容を聞 き取る技能を身につけている。

②読むこと

be 動詞・一般動詞の過去形を理解 し、それを基に、登場人物の気持 ちについて書かれた文章の内容 を読み取る技能を身につけてい る。

③話すこと〈やり取り〉

友人としたことや感謝したいことについて、be動詞・一般動詞の過去形を用いて伝え合う技能を身につけている。

④話すこと〈発表〉

大切にしている人について、基本 的な語句や表現を用いて紹介す る技能を身につけている。

⑤書くこと

大切にしている人について、基本的な語句や表現を用いて書く 技能を身につけている。

思考、判断、表現

①聞くこと

他者が大切にしている人につい て話しているのを聞いて、その概 要や要点を捉えている。

②読むこと

登場人物の気持ちについてまと めるために、書かれた文章の概要 を捉えている。

③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、 友人としたことや感謝したいことについて、基本的な語句や表現

を用いて伝え合っている。

④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、大切にしている人について、基本的な語句や表現を用いて紹介している。

⑤書くこと

ご、こ。 読み手に伝わるように、大切にし ている人について、基本的な語句 や表現を用いて書いている。

主体的に学習に取り組む態度

①聞くこと

他者が大切にしている人につい て話しているのを聞いて、その概 要や要点を捉えようとしている。

②読むこと

登場人物の気持ちについてまとめるために、書かれた文章の概要 を捉えようとしている。

③話すこと〈やり取り〉

相手にわかってもらえるように、 友人としたことや感謝したいこ とについて、基本的な語句や表現 を用いて伝え合おうとしている。

④話すこと〈発表〉

聞き手に伝わるように、大切にしている人について、基本的な語句や表現を用いて紹介しようとしている。

⑤書くこと

読み手に伝わるように、大切にしている人について、基本的な語句や表現を用いて書こうとしている。

<u>教材範囲</u> 教科書 P. 20∼27 内容のまとまり I

<u>ち</u>びまる子ちゃん、

be 動詞・一般動詞の過去形

<u>学習時期(予定)</u> 9月~10月上旬 <u>配当時間</u> 10時間

	観点別	学習評価					
学習活動、学習のねらい、学習形式等		知、技		、判、表		態度	<u>備考</u>
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
通帳をなくしたまる子につい	2	単元テスト			2	単元テスト	
て音読とQ&A、T/F		音読テスト				音読テスト	
ペアワークとグループワーク	1	単元テスト	23	単元テスト	3	単元テスト	
で情報共有							
たまちゃんへのお礼について	2	単元テスト			2	単元テスト	
音読とQ&A、T/F		音読テスト				音読テスト	
ペアワークとグループワーク	3	単元テスト	3	単元テスト	3	単元テスト	
で感謝したいことについての		ワークシート		ワークシート			
やりとり							
FOCUS, SKILLS, TRY	3	単元テスト			3	単元テスト	
Lesson 本文全体内容の再確認	25	単元テスト	12	単元テスト	35	単元テスト	
			35				
大切にしている人について発	4	パフォーマ	4	パフォーマ	4	パフォーマ	
表		ンステスト		ンステスト		ンステスト	

(3) 単元:Lesson3 Love for Dance

単元の目標

知識及び技能

「~している」や「~できる」の言い方を理解し、さまざまな場面で活用すること。

思考力、判断力、表現力等

絵や写真を見て思ったことや感じたことについて、表 現すること。

観点別評価規準

知識、技能

①聞くこと

進行形や助動詞を理解し、それを 基に、英文の内容を聞き取る技能 を身につけている。

②読むこと

進行形や助動詞を理解し、それを 基に、ダンスのちからについて書 かれた文章の内容を読み取る技 能を身につけている。

- ③話すこと〈やり取り〉 コンピュータの使い方や得意な ことについて、進行形や助動詞を 用いて伝え合う技能を身につけ ている。
- ④話すこと〈発表〉ダンスのちからや写真について、進行形や助動詞を用いて紹介する技能を身につけている。
- ⑤書くこと ダンスのちからや写真につい て、進行形や助動詞を用いて書 く技能を身につけている。

思考、判断、表現

①聞くこと

他者がダンスのちからや写真に ついて話しているのを聞いて、そ の概要や要点を捉えている。

②読むこと

ダンスのちからについてまとめるために、書かれた文章の概要を 捉えている。

- ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、 コンピュータの使い方や得意な ことについて、基本的な語句や表 現を用いて伝え合っている。
- ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、ダンスの ちからや写真について、基本的な 語句や表現を用いて紹介してい る。
- ⑤書くこと 読み手に伝わるように、ダンスの ちからや写真について、基本的な 語句や表現を用いて書いている。

主体的に学習に取り組む態度

①聞くこと

他者がダンスのちからや写真に ついて話しているのを聞いて、そ の概要や要点を捉えようとして いる。

②読むこと

ダンスのちからについてまとめるために、書かれた文章の概要を 捉えようとしている。

- ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、 コンピュータの使い方や得意な ことについて、基本的な語句や表 現を用いて伝え合おうとしてい
- ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、ダンスの ちからや写真について、基本的な 語句や表現を用いて紹介しよう としている。
- ⑤書くこと 読み手に伝わるように、ダンスの

読み手に伝わるように、タンスの ちからや写真について、基本的な 語句や表現を用いて書こうとし ている。

教材範囲

教科書P. 28~35

内容のまとまり I

ダンスのちから 進行形・助動詞 <u>学習時期(予定)</u> 10月中旬~11月下旬 <u>配当時間</u> 10時間

	観点別学習評価			
学習活動、学習のねらい、学習形式等	<u>知、技</u>	思、判、表	<u>態度</u>	<u>備考</u>
	規準 評価方法	規準 評価方法	規準 評価方法	
グループダンスについて音読	② 単元テスト		② 単元テスト	
とQ&A、T/F	音読テスト		音読テスト	
ペアワークとグループワーク	① 単元テスト	②③ 単元テスト	③ 単元テスト	
でパソコンの使い方について				
のやりとり				
アイリッシュダンスについて	② 単元テスト		② 単元テスト	
音読とQ&A、T/F	音読テスト		音読テスト	
ペアワークとグループワーク	③ 単元テスト	③ 単元テスト	③ 単元テスト	
で得意なことについてのやり	ワークシート	ワークシート		
とり				
FOCUS, SKILLS, TRY, ACTION	③ 単元テスト		③ 単元テスト	
Lesson 本文全体内容の再確認	②⑤ 単元テスト	①② 単元テスト	③⑤ 単元テスト	
		35		
興味を持ったダンスについて	④ パフォーマ	④ パフォーマ	④ パフォーマ	
発表	ンステスト	ンステスト	ンステスト	

(4) <u>単元:Lesson4 Endangered Species</u>

単元の目標

知識及び技能

「~すること」や「~するため」などの言い方を理解 し、さまざまな場面で活用すること。 思考力、判断力、表現力等

好きな動物について、紹介すること。

観点別評価規準

知識、技能

①聞くこと

不定詞を理解し、それを基に、英 文の内容を聞き取る技能を身に つけている。

②読むこと

不定詞を理解し、それを基に、世界の絶滅危惧種について書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。

③話すこと〈やり取り〉

動物園ですることや絶滅危惧種 を救うためにしたいことについ て、不定詞を用いて伝え合う技能 を身につけている。

④話すこと〈発表〉

好きな生き物や絶滅危惧種を救 う方法について、不定詞を用いて 紹介する技能を身につけている。

⑤書くこと

教材範囲

好きな生き物や絶滅危惧種を救 う方法について、不定詞を用い て書く技能を身につけている。

思考、判断、表現

①聞くこと

他者が好きな生き物や絶滅危惧 種を救うための方法について話 しているのを聞いて、その概要や 要点を捉えている。

②読むこと

絶滅危惧種を救うためにできる ことについてまとめるために、書 かれた文章の概要を捉えている。

③話すこと〈やり取り〉

相手にわかってもらえるように、 動物園ですることや絶滅危惧種 を救うためにしたいことについ て、基本的な語句や表現を用いて 伝え合っている。

④話すこと〈発表〉

聞き手に伝わるように、好きな生き物や絶滅危惧種を救う方法について、基本的な語句や表現を用いて紹介している。

⑤書くこと

内容のまとまり I

読み手に伝わるように、好きな生き物や絶滅危惧種を救う方法について、基本的な語句や表現を用いて書いている。

主体的に学習に取り組む態度

①聞くこと

他者が好きな生き物や絶滅危惧 種を救うための方法について話 しているのを聞いて、その概要や 要点を捉えようとしている。

②読むこと

絶滅危惧種を救うためにできる ことについてまとめるために、書 かれた文章の概要を捉えようと している。

③話すこと〈やり取り〉

相手にわかってもらえるように、 動物園ですることや絶滅危惧種 を救うためにしたいことについ て、基本的な語句や表現を用いて 伝え合おうとしている。

④話すこと〈発表〉

聞き手に伝わるように、好きな生き物や絶滅危惧種を救う方法について、基本的な語句や表現を用いて紹介しようとしている。

⑤書くこと

学習時期 (予定)

読み手に伝わるように、好きな生き物や絶滅危惧種を救う方法について、基本的な語句や表現を用いて書こうとしている。

配当時間

教科書 P. 38~45	世界の絶滅危惧種				12月~2	月上旬	10時間	
	不定詞							
		観点別学習評価						
学習活動、学習のねらい、学習形式		知、技		、判、表	和源	態度	<u>備考</u>	
白いには、フルド色相紙につ	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法		
身近にいる絶滅危惧種につ	V) 2	単元テスト			2	単元テスト		
て音読とQ&A、T/F		音読テスト				音読テスト		
ペアワークとグループワー	ク	単元テスト	23	単元テスト	3	単元テスト		
で動物園ですることについ	て							
やりとり								
絶滅を逃れたパンダについ	て ②	単元テスト			2	単元テスト		
音読とQ&A、T/F		音読テスト				音読テスト		
ペアワークとグループワー	ク 3	単元テスト	3	単元テスト	3	単元テスト		
で絶滅危惧種を救うために	し	ワークシート		ワークシート				
たいことについてのやりとり								
FOCUS, SKILLS, TRY	3	単元テスト			3	単元テスト		
		ワークシート						
Lesson 本文全体内容の再確認	25	単元テスト	12	単元テスト	35	単元テスト		
			35					
好きな生き物や絶滅危惧種	を 4	パフォーマ	4	パフォーマ	4	パフォーマ		
救うための考えについて発表		ンステスト		ンステスト		ンステスト		

(5) <u>単元:Lesson5 The History of Chocolate</u>

単元の目標

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

「~すること」の言い方(動名詞)を理解し、さまざまな場面で活用すること。

大切な人に贈りたいと思うプレゼントについて、説明 すること。

観点別評価規準

知識、技能

①聞くこと

動名詞を理解し、それを基に、英 文の内容を聞き取る技能を身に つけている。

②読むこと

動名詞を理解し、それを基に、チョコレートの歴史について書かれた文章の内容を読み取る技能を身につけている。

- ③話すこと〈やり取り〉 健康のためにしていることや余 暇の過ごし方について、動名詞を 用いて伝え合う技能を身につけ ている。
- ④話すこと〈発表〉大切な人に贈りたいプレゼントについて、紹介する技能を身につけている。
- ⑤書くこと 大切な人へのプレゼントについ て、書く技能を身につけてい る。

思考、判断、表現

①聞くこと他者が大切な人に贈りたいプレゼントについて話しているのを

ゼントについて話しているのを 聞いて、その概要や要点を捉えて いる。

②読むこと

チョコレートの歴史についてま とめるために、書かれた文章の概 要を捉えている。

- ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、 健康のためにしていることや余 暇の過ごし方について、基本的な 語句や表現を用いて伝え合って いる。
- ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、大切な人 に贈りたいプレゼントについて、 基本的な語句や表現を用いて紹 介している。
- ⑤書くこと 読み手に伝わるように、大切な人 に贈りたいプレゼントについて、 基本的な語句や表現を用いて書 いている。

主体的に学習に取り組む態度

①聞くこと

他者が大切な人に贈りたいプレゼントについて話しているのを聞いて、その概要や要点を捉えようとしている。

②読むこと

チョコレートの歴史についてま とめるために、書かれた文章の概 要を捉えようとしている。

- ③話すこと〈やり取り〉 相手にわかってもらえるように、 健康のためにしていることや余 暇の過ごし方について、基本的な 語句や表現を用いて伝え合おう としている。
- ④話すこと〈発表〉 聞き手に伝わるように、大切な人 に贈りたいプレゼントについて、 基本的な語句や表現を用いて紹 介しようとしている。
- ⑤書くこと 読み手に伝わるように、大切な人 に贈りないプレゼントについて

に贈りたいプレゼントについて、 基本的な語句や表現を用いて書 こうとしている。

<u>教材範囲</u> 教科書 P. 46∼53 <u>内容のまとまり I</u>

チョコレートの歴史 動名詞

<u>学習時期(予定)</u> 2月中旬~3月 配当時間 10時間

	観点別	学習評価					
学習活動、学習のねらい、学習形式等		知、技	思	、判、表		態度	<u>備考</u>
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
チョコレートの始まりについ	2	単元テスト			2	単元テスト	
て音読とQ&A、T/F		音読テスト				音読テスト	
ペアワークとグループワーク	1	単元テスト	23	単元テスト	3	単元テスト	
で健康のためにしていること							
についてやりとり							
チョコレートの歴史について	2	単元テスト			2	単元テスト	
音読とQ&A、T/F		音読テスト				音読テスト	
ペアワークとグループワーク	3	単元テスト	3	単元テスト	3	単元テスト	
で余暇の過ごし方についての		ワークシート		ワークシート			
やりとり							
FOCUS, SKILLS, TRY	3	単元テスト			3	単元テスト	
		ワークシート					
Lesson 本文全体内容の再確認	25	単元テスト	12	単元テスト	35	単元テスト	
			35				
大切な人に贈りたいプレゼン	4	パフォーマ	4	パフォーマ	4	パフォーマ	
トについて発表		ンステスト		ンステスト		ンステスト	

1 科目概要

<u>教科</u> 科目		担当者(主)	履修年次(今年度)	単位数(今年度)
家 庭	家庭総合	西山 智美	1 年	2 単位
履修対象	前学年からの 次学年での 継続履修 継続履修			
全員必履修	- 有			
教科書 家	庭総合 自立・共生・創造(東京	書籍)		

教材 (出版社)	教科書 家庭総合 自	立・共生・創造(東	京書籍)		
<u> 教物 (田水江)</u>	副教材 家庭科学習ノ	ート(熊本県高等学	校教育研究会家庭部	7会)	
	1学期中間	1学期期末	2 学期中間	2 学期期末	学年末
定期考査の実施	※5月中旬あたり	※7月上旬あたり	※10月中旬あたり	※12月上旬あたり	※3年:1月末
※ 変更可能性あり					他 : 2月中旬あたり
※ 多欠り配性のり	有	有	有	有	有

科目の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、主体的に家 庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。

思考力、判断力、表現力等

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣 食住、消費生活・環境などについ て、生活を主体的に営むために必要 な理解を図り、それらに関する技能 を体験的・総合的に身につける。

知識及び技能

家庭や地域及び社会における生活の 中から問題を見いだして課題を設定 し、解決策を構想し、実践を評価・ 改善し、考察したことを根拠に基づ

いて表現するなど、生涯を見通して

課題を解決する力を養う。

学びに向かう力、人間性等(全単元共通)

様々な人々と協働し、よりよい社会 の構築に向けて、地域社会に参画し ようとするともに、生活文化を継承 し、自分や家庭、地域の生活の充実 を図ろうとする実践的な態度を養

具体的な評価の方法

3つの観点について、それぞれに示す方法で評価する。										
知識、技能	<u>思考、判断、表現</u>	主体的に学習に取り組む態度								
・定期考査・実習・ワークシート	・実習や映像視聴、資料等の感想記述 ・行動観察、活動参加状況 ・ホームプロジェクト (取組、まとめ、発表の仕方)	・行動観察・学習プリント記述・ホームプロジェクト								

担当者から受講上のアドバイス

家庭科は「自分の生活」が教材です。しっかりと「自分」を振り返りながら学習に臨んでください。授業で思った こと、感じたこと、考えたことは積極的に発言しましょう。そして、他の人がどのような考えを持っているかを知 り、聞きましょう。多様な生き方に触れ、豊かな人生となるような学習にしてください。

期限や時間は守りましょう。また、苦手な分野があっても、意欲的に取り組んで欲しいと思います。

学習時期 (予定)	学 習 単 元	学習単元内の内容のまとまり	備考
年度当初~6月下旬	家族・社会との共生	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (1)生涯の生活設計 (2)青年期の自立と家族・家庭	
7月上旬~12月下旬	生活の自立	B 衣食住の生活の自立と設計 (1)食生活と健康	
1月中旬~年度末	家族・社会との共生	A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (3)子供の生活と保育	

(1) 単元:家族・社会との共生

単元の目標

知識及び技能

- ○人の一生について、自己と他者、社会との関わりか ら様々な生き方があることを理解する。
- ○自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活 課題に対応し意志決定をしていくことの重要性に ついて理解を深める。
- ○生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源 について理解し、情報の収集・整理ができる。
- ○生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課 題について理解する。
- ○青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意志 決定の重要性について理解を深める。
- ○家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、 家庭生活と福祉などについて理解する。
- ○家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、 家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題につい て理解を深める。

思考力、判断力、表現力等

- ○生涯を見通した自己の生活について主体的に考える。
- ○ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活につ いて考察する。
- ○生活資源を活用して生活設計を工夫する。
- ○家庭や地域のよりよい社会を創造するために、自己の 意志決定に基づき、責任をもって行動することや、男 女が協力して、家族の一員としての役割を果たし、家 庭を築くことの重要性について考察する。

観点別評価規準

知識、技能

- ①自己を振り返り、他者や社会と 関わりながら生きていること や、様々な生き方があることを 理解している。
- ②ライフステージの特徴と発達課 題、家族・家庭の機能と家族関 係について理解している。
- ③家族・家庭に関する法律につい て理解している。
- ④家族構成・家庭の機能の変化に ついて、資料やデータ等の情報 の収集・整理ができる。

思考、判断、表現

- ①多様な家族の在り方について問題を 見いだして課題を設定している。
- ②自分の結婚観・職業観を踏まえ、自 らのライフプランを具体的に考え、 工夫している。
- ③青年期の発達課題を理解し、高校生 の時期に自己理解が必要であること について考えている。
- ④自分らしい働き方や、社会との関わ りを含めて、自分の生き方について 課題解決に向けた一連の活動につい て、考察したことを根拠に基づいて 論理的に表現している

主体的に学習に取り組む態度

多様な家族の在り方や生き方に触 れ、自分らしい人生の在り方につ いて、課題解決に向けた一連の活 動を振り返って改善しようとして いる。

※提出物の提出状況やアンケート への回答状況、感想記入状況等 より、日常的に評価する

教材範囲

教科書 p 1 4~3 9

内容のまとまり I

- A 人の一生と家族・家庭及び福祉
 - (1) 生涯の生活設計
 - (2) 青年期の自立と家族・家庭

学習時期 (予定) 年度当初~6月下旬 配当時間 15時間

学習活動、学習のねらい、学	観点別学	習評価					
習形式等	_	<u>1、技</u>		判、表		態度	備考(実習課題)
自形式等	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1 生涯発達の視点	12						「なぜ、人生について学ぶ
							のか」
							自立度チェック
2青年期の課題	12		2	• 行動観察		• 行動観察	ライフプランを立てる
3目標を持って生きる	12	・定期考査	23	・リークシー ト記述等		・リークシー ト記述等	結婚観・職業観アンケート
4人生をつくる	3	・ワークシー	1				日野原重明「家族とは」を読
		卜記述等		上町瓜寺		下配处守	んで感想記述
5家族・家庭を見つめ	34						婚姻届・出生届を記入して
る							みよう
6これからの家庭生活	4		4				家事分担チェック
と社会							

(2) **単元:生活の自立**

単元の目標

知識及び技能

- ○食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界 の食文化など、食と人との関わりについて理解する。
- ○ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、 食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解する。
- ○自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に つける。
- ○おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生 について理解する。
- ○目的に応じた調理に必要な技能を身につける。

思考力、判断力、表現力等

○主体的に食生活を営むことができるよう、健康及び 環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の 継承・創造について考察し、工夫する。

観点別評価規準

知識、技能

- ①食事の意義と目的や青年期の食 生活の課題について理解している。
- ②五大栄養素の特徴、食品の栄養的 特質、調理性について理解してい る
- ③ライフステージに応じた食生活 の在り方について理解を深めて いる。
- ④調理器具や食品の安全で適切な 取り扱い方を身につけている。
- ⑤目的に応じた調理の基礎的・基本 的技能を身につけている。
- ⑥食生活を取り巻く問題について の情報の収集・整理ができる。

思考、判断、表現

- ①青年期の食生活の課題を踏まえ、 自らの食生活について問題を見 いだして課題を設定している。
- ②安全な食生活について考え、工夫している。
- ③実習を振り返り、課題を把握し、 実践を評価したり、改善したりし ている。
- ④ライフステージや生活に応じた 食生活の在り方、食生活を取り巻 く社会の現状についての課題解 決に向けた一連の活動について、 考察したことを根拠に基づいて 論理的に表現している。

主体的に学習に取り組む態度

自らの食生活を振り返り、よりよい 食生活にするために工夫したり、食 生活に関する社会の現状について、 課題解決に向けた一連の活動を振 り返って改善しようとしている。

※提出物の提出状況やアンケート への回答状況、感想記入状況等よ り、日常的に評価する。

·中華(包子饅頭·清川鶉蛋·牛

・おせち (だし巻き・日の出かま

・くまもとふるさと名人講習会 (地域の食材を使った調理)

おせち調べ (ホームプロジェクト)

奶豆腐)

食生活のマナ

ぼこ・いりどり)

・キャンプ実習に向けて・ピザ釜を使った調理

教材範囲

p 1 3 0 \sim 1 8 1

学習活動、学習のねらい、

6 食生活の文化と

知恵

内容のまとまり I

観点別学習評価

B 衣食住の生活の自立と設計

(1) 食生活と健康

学習時期(予定) 7月上旬~12月下旬 配当時間 30時間

知、技 判、表 態度 備考(実習課題) 学習形式等 評価方法 規準 規準 規準 評価方法 評価方法 1食生活の課題に (1) なぜ、人は食べるのか?食生活 について学ぶのか? ついて考える 新聞記事「和食ってすごい」感想記述 2食事と栄養・食品 3 食生活の安全と 24 2 食品表示を見てみよう(資料「こ 衛生 (5)れ何の表示?」) 食品表示調べ (ホームプロジェクト) 4 生涯の健康を見 (3)(4) (3)(4)献立作成 通した食事計画 (5) 資料「スポーツと食事」 5調理の基礎 (4)(5)(3)(4) 調理室の使い方 調理計量器の使い方 行動観察 行動観察 調理実習 ・ワークシー ・ワークシー ・きゅうりの半月切り 卜記述等 • 定期考查 卜記述等 米粉マフィン ・ホームプロ ・ホームプロ ・調理実習 ・和食(親子丼・すまし汁・ほう ジェクト ジェクト れん草のごま和え) ・洋食(マカロニグラタン・コン ソメスープ・みかんゼリー)

7これからの食生活	6	34		資料「食品ロスについて」感想記述

(3) 単元:家族・社会との共生

単元の目標

知識及び技能

- ○乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親 の役割と保育、子育て支援について理解を深める。
- ○子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に つける。
- ○子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深める。

思考力、判断力、表現力等

- ○子供を生み育てることの意義や、保育の重要性について考える。
- ○子供の健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性を考察する。
- ○子供との適切な関わり方を工夫する。

観点別評価規準

知識、技能

- ①乳幼児期の心身の発育·発達について理解している。
- ②乳幼児期の生活について、生活習慣や食事、衣服、健康管理や愛着の形成について理解している。
- ③子供の遊びの意義について理解 している。
- ④子供の発達段階に応じた適切な 働きかけの仕方を身につけてい る。
- ⑤子育てを支援する制度等、社会全体で子育てを支援していくことの重要性について理解を深めている。
- ⑥子供を取り巻く社会環境の変化 や課題について理解を深めてい る。

思考、判断、表現

- ①子供を生み育てることの意義や責任について問題を見いだして課題を設定している。
- ②子供の健やかな発達のために、親 や周囲の関わりの重要性について 考え、工夫している。
- ③子供との適切な関わり方について、実践を評価したり、改善したりしている。
- ④子供の育つ環境に関する課題や社会が果たす役割の重要性についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している。

主体的に学習に取り組む態度

社会の一員として、健やかな子供の 発育・発達に適切に関わり、自分や 家族、地域の生活の充実向上を図る ために実践しようとしている。

※提出物の提出状況やアンケート への回答状況、感想記入状況等よ り、日常的に評価する。

 教材範囲
 内容のまとまり I
 学習時期 (予定)
 配当時間

 p 4 2 ~ 6 9
 A 人の一生と家族・家庭及び福祉 (3)子供の生活と保育
 1月中旬~年度末
 25時間

学習活動、学習のねらい、学	観点別]学習評価						
習形式等	<u>知、技</u> 規準 評価方法		<u>思、判、表</u> 規準 評価方法		<u>態度</u> 規準 評価方法		<u>備考(実習課題)</u>	
 1命を育む	况毕	計劃刀伍	双华 ①	計価力伝	况毕	計価力伝	なぜ、子どものことについて学	
., -,,-							ぶのか?	
							中絶に関する資料を読んで感 想記述	
2子どもの育つ力を知る	13	•定期考査			•行動観察	出産の映像視聴 子どもの遊び体験 (折り紙、絵		
り知し、マサレ本へ	@W	•調理実習		・ワークシー ト記述等 ③		・ワークシー ト記述等	本、紙ヒコーキ・・・)	
3親として共に育つ	24						粉ミルク・離乳食の試食 記事「出生前診断」の感想記述	
4子どもとの触れ合い から学ぶ	34		3				乳幼児との交流(保育園訪問)	
5これからの保育環境	56		4				子どもを取り巻く環境の資料 読み取り	

1 科目概要

履修年次(今年度) 単位数 (今年度) 教 科 科目 担当者(主) 農業と環境 中原 武德 年 2 単位 農業 1 前学年からの 次学年での 履修対象 継続履修 継続履修 全員必履修

教科書 農業と環境(実教出版) 教材 (出版社) 副教材なし 1 学期中間 1 学期期末 2学期中間 2学期期末 学年末 ※3年:1月末 他:2月中旬あたり ※5月中旬あたり ※7月上旬あたり ※10月中旬あたり ※12月上旬あたり 定期考査の実施 ※ 変更可能性あり 有 有 有

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を育成することを目指す。

 知識及び技術
 思考力、判断力、表現力等
 学びに向かう力、人間性等(全単元共通)

 農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
 農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
 技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

具体的な評価の方法

3つの観点について、それぞれ次に示す方法で評価する。

 知識、技術
 思考、判断、表現
 主体的に学習に取り組む態度

 ・定期考査
 ・定期考査(記述)
 ・授業・実習中の学習態度

・実習(実技)・実習(実技)・提出物の提出

担当者から受講上のアドバイス

- ・授業内容と実習内容がリンクしていきますので日々の授業・実習を大切にして下さい。
- ・実習後、実習ノートの記入があります。後で見てわかるように丁寧に記入して下さい。また、提出の必要があります。
- ・実習では、様々な道具を使用します。怪我の危険性の高いものもありますので注意してください。

学習時期 (予定)		学 習 単 元	学習単元内の内容のまとまり	備	考
年度当初~5月上旬	第1章	農業と環境を学ぶ	1農業・環境学習		
			2農業と環境の学び方		
5月上旬~7月中旬	第2章	私たちの暮らしと	1人間と植物・動物との関わり		
		農業・農村	2農業と自然・社会との関わり		
			3日本の農業・農村と食料供給		
			4 農業・農村の役割		
			5 これからの農業・農村		
9上旬~11月上旬	第3章	栽培と飼育の基礎	1作物の特性と栽培の仕組み		
			2作物を取り巻く環境とその管理		
11月上旬~3月中旬	第4章	栽培と飼育のプロジ	ピーマン		
		エクト	オクラ		
			稲		
			大豆		
			トマト		
			白菜		
			大根	_	
			ジャガイモ		

(1) 単元:第1章 農業と環境を学ぶ

単元の目標

知識及び技能

- ・農業と環境の関係を理解する
- ・栽培や環境調査を体験的に学習し、農業や環境に起 こっている問題を理解する。

思考力、判断力、表現力等

農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

観点別評価規準

知識、技術

- ①農業と環境について理解できる。
- ②農業問題と環境問題を関連づけて理解できる。
- 思考、判断、表現
- ①農業問題・環境問題を関連づけて 説明できる。
- ②農業が環境に負荷をかけていることを説明できる。

主体的に学習に取り組む態度

- ①環境調査から農業に係わる問題 点を見出し、主体的に解決しよう とする。
- ②気候変動に伴う農業のあり方について判断できる。

教材範囲	<u>内容のまとまり I</u>					習時期(予定)	配当時間	
P 6 ∼ P 1 6	第	51章 農業	と環境	を学ぶ	年	度当初~5月	1上旬	6 時間
学習活動、学習のねらい、学習形式		川学習評価	·····	\lal +	т	AV. H-	/	
子首品別、子首のねらい、子首形式	<u>辛</u> 規準	<u>知、技</u> 評価方法	<u></u> 規準	<u>、判、表</u> 評価方法	規準	<u>態度</u> 評価方法	備考	
1農業・環境学習	1	確認テスト	1	課題設定	1	課題設定		
2農業と環境の学び方	12	確認テスト	12	解決設定	2	解決設定		

(2) 単元:第2章 私たちの暮らしと農業・農村

単元の目標

知識及び技術

- ・動植物の生命活動、生物間のつながり、生物の体を理解する。
- 物質の循環について理解する。

思考力、判断力、表現力等

農業分野における動植物の生命活動と物質の循環について課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

観点別評価規準

知識、技術

- ①動植物の生命活動について理解 する。
- ②物質が循環していることについ て理解する。

思考、判断、表現

- ①動植物の生命活動と物質の循環 について説明できる。
- ②農業と自然環境問題について説明できる。

主体的に学習に取り組む態度

- ①農業・農村の様々な課題に対して 主体的に解決しようとする。
- ②これから農業が向かう方向について判断できる。

<u>教材範囲</u> P18∼P52 <u>内容のまとまり I</u> 第2章 私たちの暮らしと農業・農村 学習時期(予定) 5月上旬~7月中旬 <u>配当時間</u> 18時間

	観点別	学習評価					
学習活動、学習のねらい、学習形式等		知、技	思、判、表		態度		<u>備考</u>
	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法	
1人間と植物・動物との関わり	1	確認テスト	12	レポート	1	記録簿提出	
2農業と自然・社会との関わり	2	確認テスト	12	レポート	12	記録簿提出	
3日本の農業・農村と食料供給	1	確認テスト					
4農業・農村の役割	1	確認テスト			2	記録簿提出	
5 これからの農業・農村	1	確認テスト			2	記録簿提出	

(3) 単元:第3章 栽培と飼育の基礎

単元の目標

知識及び技術

- ・作物の分類と特性について理解する。
- ・作物の発芽から結実までの成長の仕組みについて 理解する。
- 作物の成長に伴う管理方法について理解する。
- ・作物の繁殖の仕組みを理解する。

思考力、判断力、表現力等

- ・作物の成長の仕組みについて理解し、成長ステージごとの管理方法について判断できる。
- ・作物の成長に関連する様々な栽培環境について理解 し、作物の健全な成長を促すように主体的に解決し ようとする。

観点別評価規準

知識、技術

- ①作物の特性について理解する。
- ②作物の成長の仕組みについて理解する。
- ③作物の生育に伴う管理方法について理解する。

思考、判断、表現

- ①作物の特性や生育の仕組みについて説明できる。
- ②作物の生育に伴う管理方法について説明できる。

主体的に学習に取り組む態度

- ①作物の生育や管理方法について 判断できる。
- ②作物の生育に係わる様々な問題 を主体的に解決しようとする。

教	材範囲	内容	容のまとまり I			学	習時期(予定)		配当時間
	P 5 4~P 8 4		第3章 栽培	音と飼育	の基礎		9上旬~11/	18時間	
			観点別学習評価						
	学習活動、学習のねらい、学習形式等	<u> </u>	知、技		· 利、表	1.to 3#4+	態度	<u>備考</u>	
ŀ	1 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/		規準 評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法		
	1作物の特性と栽培の仕組み		 確認テスト 	12	レポート	12	記録簿提出		
	2 作物を取り巻く環境とその管理		②③ 確認テスト	12	レポート	12	記録簿提出		

(4) 単元:第4章 栽培と飼育のプロジェクト

単元の目標

知識及び技術

- ・様々な農業生物の栽培を通じ、その農業生物の特性を理解する。
- ・様々な農業生物の成育段階に応じた管理作業の手順や内容を理解する。

思考力、判断力、表現力等

- ・作物の成長の仕組みについて理解し、成長ステージごとの管理方法について判断できる。
- ・作物の成長に関連する様々な栽培環境について理解 し、作物の健全な成長を促すように主体的に解決し ようとする。

観点別評価規準

知識、技術

- ①農業生物の特性を理解する。
- ②農業生物の管理作業が理解できる。

思考、判断、表現

- ①作物の特性や生育の仕組みについて説明できる。
- ②作物の生育に伴う管理方法について説明できる。

主体的に学習に取り組む態度

- ①作物の生育や管理方法について 判断できる。
- ②作物の生育に係わる様々な問題 を主体的に解決しようとする。

			内容のまとまり <u>I</u>				g時期 (予定 <u>)</u>	配当時間		
	P 1 0 4~P 1 7 4	第一	第4章 栽培と飼育のプロジェクト				1	1月上旬~3	月中旬	28時間
	学習活動、学習のねらい、学習形式	等		<u>学習評価</u> 知、技 評価方法	<u>思</u> 規準	<u>、判、表</u> 評価方法	規準	<u>態度</u> 評価方法	<u>備考</u>	
	ピーマン	(12	確認テスト	1)2	記録簿提出	1)2)	記録簿提出		
	オクラ	(12	確認テスト	1)2	記録簿提出	12	記録簿提出		
	稲	(1)2	確認テスト	1)2	記録簿提出	1)2)	記録簿提出		
	大豆	(12	確認テスト	1)2	記録簿提出	12	記録簿提出		
	トマト	(12	確認テスト	1)2	記録簿提出	12	記録簿提出		
	白菜	(12	確認テスト	12	記録簿提出	12	記録簿提出		
	大根	(12	確認テスト	12	記録簿提出	12	記録簿提出		
	ジャガイモ	(12	確認テスト	12	記録簿提出	12	記録簿提出		

- 1 学年成績算出方法 (1学期成績+2学期成績+3学期成績)÷3
- 2 各学期成績算出基礎 関心・意欲・態度=20% 授業態度等

思考・判断・表現=20% 実習・提出物等

技能=20% 実習等

知識・理解=40% 考査・実習等

- 3 単位の認定
- (1) 出席時数が2/3以上であること。
- (2) 評定2 (30点) 以上であること。
- (3) 課題やレポートがすべて提出されること。

1 科目概要

<u>教 科</u> 科 目		担当者(主)	履修年次(今年度)	単位数(今年度)
農業	総合実習	米村 慎悟	1 年	3 単位
履修対象 全員必履修	前学年からの 次学年での 継続履修 継続履修 有 有		*このうち1単	位は時間外総合実習

教材(出版社)	教科	書 教科書はない	ため、指導案をも	とに授業展開する		
 	副教	対 「農業と環境	[] や「アウトドア	」関係の本、資料・	・プリントを使用	
		L 学期中間	1 学期期末	2 学期中間	2学期期末	学年末
定期考査の実施		※5月中旬あたり	※7月上旬あたり	※10月中旬あたり	※12月上旬あたり	※3年:1月末
※ 変更可能性あり)					他 : 2月中旬あたり
7.1. 32.7. 11012237		-	有	-	有	有

科目の目標

農林業やアウトドアライフの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業・アウトドアライフの各分野の改善を図る実践的な資質・能力を育成することを目指す。

農林業やアウトドアライフを総合的
に捉え体系的・系統的に理解すると
ともに、関係する技術を身に付ける
ようにする。

知識及び技能

農林業、アウトドアライフに関する 総合的な課題を発見し、農林業や関 連産業に携わる者として合理的かつ 創造的に解決する力を養う。

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等 (全単元共通) 農林業、アウトドアライフの総合的 な知識や技術が身に付くよう自ら学 び、農林業、アウトドアライフの振 興や社会貢献に主体的かつ協働的に 取り組む態度を養う。

具体的な評価の方法

定期考査と実技・実習を中心に評価します。

 知識、技能
 思考、判断、表現
 主体的に学習に取り組む態度

 ・定期考査
 ・定期考査 (記述)
 ・実習 (実技)
 ・授業・実習 ・授業・実習中の学習態度

 ・提出物の提出

担当者から受講上のアドバイス

- ・授業内容と実習内容がリンクしていきますので日々の授業・実習を大切にして下さい。
- ・実習後、実習ノートの記入があります。後で見てわかるように丁寧に記入して下さい。また、提出の必要があります。
- ・実習では、様々な道具を使用します。怪我の危険性の高いものもありますので注意してください。

学習時期 (予定)	学 習 単 元		学習単元内の内容のまとまり	備	考
年度当初~12月上旬	花苗・家庭菜園を作ろう)	草花、栽培植物の選定		
			耕耘・畝立て・マルチ張り		
			播種・育苗		
			定植・管理(7月から収穫)		
			花壇整備・植えつけ		
6月上旬~7月上旬	釣りに行こう		仕掛け作り		
			渓流釣り		
4月~11月中旬	トレッキングに行こう	ア	季節を知る		
		リート	景色を知る		
4月上旬~9月中旬	キャンプに行こう	_ i	テント張り		
		アラ	キャンプ飯つくり		
6月上旬~9月上旬	カヌーに乗ろう	イ	カヌーの基本操作		
		フ	渓流での実技		
5月中旬~12月中旬	マウンテンバイク		マウンテンバイクの基礎・基本		
			マウンテンバイク実技①グラウンド		
	 		マウンテンバイク実技②コース		
			マウンテンバイク実技③ロード		
6月上旬~2月上旬	クラフトを楽しもう		自然素材の選定		
			創作活動		
			創作品紹介		
1月~3月	プレゼンテーション作成	Ì.	泉分校の活動この1年		

(1) 単元:花苗・家庭菜園を作ろう

単元の目標

知識及び技能

・植物の栽培管理について総合的に捉え体系的・系統 的に理解するとともに、関係する技術を身に付ける ようにする。

思考力、判断力、表現力等

・農業の総合的な知識や技術が身に付くよう自ら学び、 農業振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む 態度を養う。

観点別評価規準

知識、技能

- ①各作業工程(栽培・管理)の目的 を理解する。
- ②植物の生育にとって環境条件が 大切であることを理解する。

思考、判断、表現

- ①植物の成長過程における適切な 管理の必要性が判断できる。
- ②植物の成長過程における適切な 作業ができる。

主体的に学習に取り組む態度

①植物の生育過程における状況を 把握し、事前に対応できる能力と 態度を養う。

<u>教</u>	 対範囲 プリント	<u>内容のまとまり I</u> 家庭菜園を作ろう				図時期 (予定) F度当初~6	月上旬	<u>配当時間</u> 12時間	
	学習活動、学習のねらい、学習形式等		<u>川学習評価</u> <u>知、技</u> 評価方法		<u>、判、表</u> 評価方法	規準	<u>態度</u> 評価方法	備考	
	花苗・栽培植物の選定					(])	取り組み		
	耕耘・畝立て・マルチ張り	12	実習	12	実習	1	取り組み		
	播種・育苗	12	実習	12	実習	1	取り組み		
	定植・管理(7月から収穫)	12	実習	12	実習	1	取り組み		

(2) <u>単元:アウトドアライフ</u>

単元の目標

知識及び技能

- ・アウトドアライフについての基礎・基本を理解し、 実際にアウトドアライフができる。
- ・自然との関わりの中でアウトドアライフが心身に 良い影響を及ぼすことが理解できる。

思考力、判断力、表現力等

・得た知識と経験を活かし、様々な野外活動にチャレンジし、自ら考え行動できる態度を養う。

観点別評価規準

知識、技能

①アウトドアライフについての基礎・基本を理解し、実際にアウトドアライフができる。

思考、判断、表現

①アウトドアライフを仲間と協力 して実施できるように主体的な 判断ができる。

主体的に学習に取り組む態度

①自然環境はもとより自分の生き 方にも関心を持ち、意欲的に行動 する能力と態度を養う。

教材範囲	内容のまとまり I	可容のまとまり I			配当時間
学習内容別プリント	アウトド	アウトドアライフ			40時間
	観点別学習評価				
学習活動、学習のねらい、学習形式等	= <u>2004 424</u>	思、判、表	態度	<u>備考</u>	
※法分りに行こる	規準 評価方法	規準 評価方法	規準 評価方法		
渓流釣りに行こう	 (1) 確認テスト 	(1) 計画・実施	 取り組み 		
トレッキングに行こう	① 確認テスト	① 計画・実施	① 取り組み		
キャンプに行こう	① 確認テスト	① 計画・実施	① 取り組み		
カヌーに乗ろう	① 確認テスト	① 計画・実施	① 取り組み		
マウンテンバイク	① 確認テスト	① 計画・実施	① 取り組み		

(3) <u>単元:クラフトを楽しもう</u>

単元の目標

知識及び技能

- ・自然素材について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関係する技術を身に付けるようにする。
- 思考力、判断力、表現力等
- ・農林業の総合的な知識や技術が身に付くよう自ら学 び、農林業や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組 む態度を養う。

観点別評価規準

知識、技能

- ①各作業工程の目的を理解する。
- ②自然素材が大切であることを理解する。

思考、判断、表現

- ①自然素材の特徴や尊さの必要性 について表現できる。
- ②自然素材の状態に応じた適切な 使用や創作活動ができる。

主体的に学習に取り組む態度

①自然素材における創作活動状況 を把握し、的確に対応できる能力 と態度や作品製作力を養う。

教	<u>材範囲</u> プリント	<u>内容のまとまり I</u> 花苗を	作ろう	学習時期(予定) 9月上旬~12	<u>配当時間</u> 月上旬 10時間
	学習活動、学習のねらい、学習形式等	<u>観点別学習評価</u> <u>知、技</u> 規準 評価方法	<u>思、判、表</u> 規準 評価方法	<u>態度</u> 規準 評価方法	備考
	自然素材の選定	①② 実習	①② 実習	① 取り組み	
	創作活動	①② 実習	①② 実習	① 取り組み	
	創作品紹介	①② 実習	①② 実習	① 取り組み	

(4) <u>単元:プレゼンテーション作成</u>

単元の目標

知識及び技能

・実際に実施したアウトドアライフや創作活動、調査・ 観察等を系統立ててまとめることができる。

思考力、判断力、表現力等

・発表会においてわかりやすく自分のものとして発表 ができる。

観点別評価規準

知識、技能

- ①アウトドアライフや創作活動、調 査・観察等を各項目別目的が理解 できる。
- ②アウトドアライフや創作活動、調査・観察等の各項目別知識・技能が自分のものとなっている。

思考、判断、表現

①発表会においてわかりやすく自 分のものとして発表ができる。

主体的に学習に取り組む態度

①一年間の学習の内容を主体的に まとめ、わかりやすく発表する能力と態度を養う。

<u>教</u>	<u>材範囲</u> プリント	内容のま	<u>とまり I</u> プレゼンテー	ーション	/作成	<u>学</u>	習時期(予定) 1月~3	月	<u>配当</u> 8	<u>詩間</u> 時間
	学習活動、学習のねらい、学習形式等	194711179	<u>川学習評価</u> <u>知、技</u> 評価方法		<u>、判、表</u> 評価方法	規準	態度 評価方法	<u>備考</u>		
	泉分校の活動この1年	12	作品	1	発表	1	取り組み			

1 科目概要

<u>教 科</u> 科 目		担当者(主)	履修年次(今年度)	単位数(今年度)
農業	農業と情報	中原 武德	1 年	2 単位
履修対象	前学年からの 次学年での 継続履修 継続履修			
全員必履修	- 有			
数利書 農業と	情報(宝務教育)			

教材(出版社)					
定期考査の実施 ※ 変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬あたり	<u>1学期期末</u> ※7月上旬あたり 有	<u>2学期中間</u> ※10月中旬あたり	<u>2学期期末</u> ※12月上旬あたり 有	<u>学年末</u> ※3年:1月末 他:2月中旬あたり 有

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、農業に関する情報を主体的に活用するために 必要な資質・能力を育成することを目指す。

知識及び技術	<u>思考力、判断力、表現力等</u>	<u>学びに向かう力、人間性等</u> (全単元共通)
農業に関する情報について体系的・ 系統的に理解するとともに、関連す る技術を身に付けるようにする。	農業情報の活用に関する課題を発見 し、農業や農業関連産業に携わる者 として合理的かつ創造的に解決する 能力を養う。	農業に関する情報について主体的に 調査・分析・活用できるよう自ら学 び、農業の振興や社会貢献に主体的 かつ協働的に取り組む態度を養う。
目体的な証価の大法		

具体的な評価の方法

3つの観点について、それぞれ次に示す方法で評価する。									
知識、技術	<u>思考、判断、表現</u>	主体的に学習に取り組む態度							
・定期考査(実技) ・演習(実技)	・定期考査(記述) ・演習(実技)	・授業中の学習態度 ・提出物(演習印刷物)の提出							
In Mark the analysis and a second									

担当者から受講上のアドバイス

- ・授業中の演習に十分な時間を取りますので理解を深めてください。
- ・分からない部分は、その時間中に質問し、解決する癖を付けましょう。
- ・印刷物の提出は、確実に行いましょう。

学習時期 (予定)	学 習 単 元	学習単元内の内容のまとまり	備考
年度当初~5月中旬	私たちの生活と農業の情報化	情報社会における私たちの生活	
		情報とメディア	
		情報社会とモラル	
		農業を支える情報	
5月中旬~6月上旬	社会を支えるコンピュータ	コンピュータの仕組み	
		データや情報の表現	
		情報通信ネットワーク	
		インターネットの仕組み	
		情報セキュリティー	
6月上旬~3月下旬	コミュニケーションと情報デザイン	文書の作成と表現	
		データの集計と視覚化	
		画像・図形処理ソフトウェア利用	
		プレゼンテーション	
		情報発信(web ページ)	

(1) 単元:1章、私たちの生活と農業の情報化

単元の目標

知識及び技術

- ・データと情報、意思決定の過程を理解する。
- ・情報社会の発展について理解する。
- ・農業における情報の意義を理解する。

思考力、判断力、表現力等

・農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業 関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決す る能力を養う。

観点別評価規準

知識、技術

- ①データや情報の重要性について 理解できる。
- ②現在、社会生活の中で生き抜くに 必要な情報の大切さを理解でき る。

思考、判断、表現

- ①情報がいかに現代生活に必要か 判断できる。
- ②データ・情報の正しい見方・処理方法を主体的に考えることができる。

主体的に学習に取り組む態度

①情報を正しく認識・処理して社 会生活を改善していく態度を養 う。

教	材範囲		sとまり I				習時期(予定)		配当即	
	P 6~P 2 4	:	私たちの生活と	農業の	の情報化	年	F度当初~5	月中旬	6	時間
		170	点別学習評価							
	学習活動、学習のねらい、学習形式等	∸ !	<u>知、技</u> 準 評価方法	担業	<u>、判、表</u> 評価方法	規準	<u>態度</u> 評価方法	備考		
ŀ	It is a large of the second of	况		規準		况平	計៕万伝			
	情報社会における私たちの生活	(1	確認テスト	(1)	記録簿提出					
	情報とメディア	(]	① 確認テスト	1	記録簿提出	1	レポート			
	情報社会とモラル	1	② 確認テスト	12	記録簿提出	1	レポート			
	農業を支える情報	(]	① 確認テスト	12	記録簿提出	1	レポート			

(2) <u>単元:2章、社会を支えるコンピュータ</u>

単元の目標

知識及び技術

- ハードウェアとソフトウェアの概要を理解する。
- オペレーティングシステムの役割と働きについて理解する。

思考力、判断力、表現力等

・ハードウェアの仕組みを把握し、そのハードウェア を動かすオペレーティングシステムの役割について理 解し、建設的に活用する能力を養う。

観点別評価規準

知識、技術

- ①ハードウェアとソフトウェアの 概要が理解できる。
- ②オペレーティングシステムの役割が理解できる。

思考、判断、表現

- ①ハードウェアとソフトウェアが 一体になって情報を処理することが判断できる。
- ②ハードウェアにとってオペレー ティングシステムの必要性が判 断できる。

主体的に学習に取り組む態度

①情報を正しく認識・処理して社 会生活を改善していく態度を養 う。

教	材範囲	内容のま	とまり I			学	習時期(予定)		配当	寺間
	P 2 5~P 5 4	社	t会を支える	コンピ	゚ュータ	Į	5月中旬~6	月上旬	6	時間
	学習活動、学習のねらい、学習形式等	19471117	<u>別学習評価</u> <u>知、技</u> 評価方法		、 <u>判、表</u> 評価方法	規準	<u>態度</u> 評価方法	備考		

学習活動、学習のねらい、学習形式等	<u>観点別字資評価</u> <u>知、技</u> 規準 評価方法		<u>、判、表</u> 評価方法	規準	<u>態度</u> 評価方法	備考
コンピュータの仕組み	 確認テスト 					
データや情報の表現	① 確認テスト					
情報通信ネットワーク	①② 確認テスト	12	記録簿提出	1	レポート	
インターネットの仕組み	①② 確認テスト	12	記録簿提出	1	レポート	
情報セキュリティー	② 確認テスト	2	記録簿提出	1	レポート	

(3) <u>単元:3章、コミュニケーションと情報デザイン</u>

単元の目標

知識及び技術

- ・正確な情報収集と記録の重要性を理解する。
- ・情報の受け手に配慮してまとめることの重要性を理解する。
- ・情報を活用するソフトウェアについて理解する。

思考力、判断力、表現力等

・各種、ソフトウェアの活用方法を理解し、農業情報に 関する課題を解決する合理的かつ創造的に解決する能力を養う。

観点別評価規準

知識、技術

- ①情報の収集・処理を適切に行うことの重要性が理解できる。
- ②情報を処理するためのソフトウェアの活用について理解できる。

思考、判断、表現

- ①情報を適切に処理し、その結果から問題解決方法を主体的に考えることができる。
- ②適切な情報処理をするソフトウェアの使用について判断できる。

主体的に学習に取り組む態度

①情報を正しく認識・処理して社 会生活を改善していく態度を養 う。

			•	
<u>教材範囲</u> P 5 8 ∼ P 1 3 2	<u>内容のまとまり I</u> コミュニケーショ	ンと情報デザイン	学習時期(予定) 6月上旬~12	<u>配当時間</u> 月中旬 38時間
学習活動、学習のねらい、学習形式等	<u>観点別学習評価</u> <u>知、技</u> 規準 評価方法	<u>思、判、表</u> 規準 評価方法		<u>備考</u>
文書の作成と表現	 企認テスト 	② 作品提出	① 取り組み	
データの集計と視覚化	①② 確認テスト	①② 作品提出	① 取り組み	
画像・図形処理ソフトウェア利用	①② 確認テスト	①② 作品提出	① 取り組み	
プレゼンテーション	①② 確認テスト	①② 作品提出	① 取り組み	
情報発信(web ページ)	① 確認テスト			

1 科目概要

<u>教</u> 科	森で学ぶ	担当者(主)	履修年次(今年度)	<u>単位数(今年度)</u>
農業		中原・米村	1 年	2 単位
履修対象 全昌 以	前学年からの 次学年での 継続履修			

教材(出版社)	教科書 孝	枚科書なし、	指導案をもとに授業	展開		
	副教材 畐	削教材なし				
	1 学期	中間_	1学期期末	2 学期中間	2 学期期末	学年末
定期考査の実施	※ 5	5月中旬あたり	※7月上旬あたり	※10月中旬あたり	※12月上旬あたり	※3年:1月末
※ 変更可能性あり						他 : 2月中旬あたり
次 友丈可能性のり		-	有	-	有	有

科目の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域資源の活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技能	<u>思考力、判断力、表現力等</u>	学びに向かう力、人間性等 (全単元共通)
科目について体系的、系統的に理解 する。関連する技術を身に付ける。	自身の課題を発見し合理的かつ創造 的に解決する力を養う。	学習した内容を社会生活で活用し社 会貢献に主体的かつ協動的に取り組 む態度を養う。
目は始わず年の七汁		

具体的な評価の方法

定期考査と実技を中心に評価

- 朔方宜と夫奴を中心に計価		
知識・技能	<u>思考・判断・表現</u>	主体的に学習に取り組む態度
期考査 習	定期考查 実習	実習(学習態度を含む) 提出物

担当者から受講上のアドバイス

学習に主体的に取り組み学習を深めていきましょう。

実習は危険が常に隣り合わせです。気を引き締めて取り組みましょう。

日々の日誌を丁寧に書き、保存することで、3年間のポートフォリオを作りましょう。

学習時期 (予定)	学 習 単 元	学習単元内の内容のまとまり	備考
年度当初~6月中旬	アウトドアライフ	テント張り	
		タープ張り	
6月下旬~7月中旬	山の生活文化	料理作り	
		ガスの使用方法	
9月~12月	山の活用	竹の一輪挿し	
		ストーンペイント	
1月~3月	山の文化	竹とんぼ作り	
		火打ち石の使い方	

(1) 単元:アウトドアライフ

単元の目標

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

・アウトドアに関しての知識・技術を理解し、実際に アウトドアライフができる。 学習で得た知識や経験を活かし、様々な野外活動に積極的にチャレンジし自ら考えて行動できる態度を養う。

観点別評価規準

<u>知識・技能</u>
① アウトドアライフの基礎・基本

を理解し、実際にアウトドアが

思考・判断・表現
① 仲間と協力して実施できるように、主体的な判断をすることができる。

主体的に学習に取り組む態度

① 自分の生き方に目を向け、意欲的に行動する能力と態度を養う。

教	材範囲	容のまとまり		学習時期(予定)	酉	記当時間
	学習内容別プリント	アウトド	アライフ	4月~6月		16時間
	学習活動、学習のねらい、学習形式等	観点別学習評価 <u>知・技</u> 規準 評価方法	<u>思・判・表</u> 規準 評価方法	<u>態度</u> 規準 評価方法	備考	
	テント正り	① 確認ティ	① プリント	① 野り知り		

学習活動、学習のねらい、学習形式等	<u>観点別字智評価</u> <u>知・技</u> 規準 評価方法	知・技思・判・表		備考
テント張り	① 確認テス ト	① プリント 計画・実 施	① 取り組み	
タープ張り	① 確認テスト	① プリント 計画・実 施	① 取り組み	

(2) <u>単元:山の生活文化</u>

単元の目標

知識及び技能

・山での料理やガスの使用に関して知識・技術を理解 し、実際に調理・使用ができる。 思考力、判断力、表現力等

学習で得た知識や経験を活かし、様々な野外活動に積極的にチャレンジし自ら考えて行動できる態度を養う。

観点別評価規準

知識・技能

① 山での調理やガスの使用方法 について基礎・基本を理解し、 実際にアウトドアができる 思考・判断・表現

① 仲間と協力して実施できるよう に、主体的な判断をすることが できる。 主体的に学習に取り組む態度

① 自分の生き方に目を向け、意欲 的に行動する能力と態度を養

教	材範囲	内容	<u>内容のまとまり I</u>					皆時期(予定)		<u>配当</u>	寺間	
	学習内容別プリント		山の生活文化					6月~7	月	8	時間	
			観点別	学習評価								
	学習活動、学習のねらい、学習形式等			知・技	思・判・表			態度	<u>備考</u>			
		ŧ	規準	評価方法	規準	評価方法	規準	評価方法				
	山での調理	(1	確認テス	1	プリント	1	取り組み				
				1		計画・実						
						施						
	ガスの使用方法	(1)	確認テス	(1)	プリント	1	取り組み				1
				١		計画・実						

施

(3) 単元:山の活用

単元の目標

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

山にある物 (竹・石) の活用方法を理解し、様々な形に活用することができる

学習で得た知識や経験を活かし、様々な野外活動に積極的にチャレンジし自ら考えて行動できる態度を養っ

観点別評価規準

知識·技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

① 竹や石の活用方法について基 礎・基本を理解し、実際にアウ ① 仲間と協力して実施できるよう に、主体的な判断をすることが

① 自分の生き方に目を向け、意欲的に行動する能力と態度を養

トドアができる	できる。		う。 	う。 				
<u>教材範囲</u> 学習内容別プリント	<u>内容のまとまり I</u> 山 <i>0</i>)活用	学習時期(予定) 9月~12	<u>配当時間</u> 月 3 2 時間				
学習活動、学習のねらい、学習形式等 竹の一輪挿し	観点別学習評価 知・技 規準 評価方法 ① 確認テスト ト	思・判・表 規準 評価方法 ① プリント 計画・実 施	<u>態度</u> 規準 評価方法 ① 取り組み					
ストーンペイント	① 確認テスト		① 取り組み					

(4) 単元:山の文化

単元の	日	枻

知識及び技能

竹や火打ち石に関しての知識・技術を理解し、実際に アウトドアライフができる。

思考力、判断力、表現力等

学習で得た知識や経験を活かし、様々な野外活動に積極的にチャレンジし自ら考えて行動できる態度を養っ

観点別評価規準

知識・技能

① 竹や火打ち石の活用方法について基礎・基本を理解し、実際にアウトドアができる

思考・判断・表現

② 仲間と協力して実施できるよう に、主体的な判断をすることが できる。

主体的に学習に取り組む態度

① 自分の生き方に目を向け、意欲 的に行動する能力と態度を養 う。

教材範囲 内容のまとまり I 学習時期 (予定) 配当時間 山の文化 1月~3月 18時間 学習内容別プリント 観点別学習評価 学習活動、学習のねらい、学習形式等 知・技 思・判・表 態度 備考 規準 評価方法 規準 評価方法 評価方法 竹とんぼ作り 確認テス プリント 取り組み \vdash 計画・実 プリント (1) 確認テス 取り組み 火打ち石の活用 計画・実 \vdash 施

1 科目概要

<u>教 科</u> 科	· 目				担当者(主)	履修年次(今年度)	単位数	(今年度)
総合的な探究の時間		緑の時			井上 典仁	1 年		1 単位
履修対象		前学年か 継続履修		<u>次学年での</u> 継続履修				
全員必履	修	-		-				
<u> 教材 (出版社)</u>	 教材				 			
<u>定期考査の実施</u> ※ 変更可能性あり	1学期中間 ※5月中旬	: -	1 学期期 ※ 7 J	<u>末</u> 月上旬あたり -	 学期中間 ・1 0月中旬あたり -	 2 <u>学期期末</u> ※12月上旬あたり -	<u>学年末</u> ※3年: 他:	1月末 2月中旬あたり -

科目の目標

探究の見方・考え方を働かせ、自己実現に向けて探究することを通して、自他の思いや個々人の尊厳を重んじ、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	<u>思考力、判断力、表現力等</u>	学びに向かう力、人間性等 (全単元共通)		
探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題解決に向けた取り組み方を探り、探究の意義や価値を理解するようにする。	実社会や実生活、他者と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	探究に主体的・協働的に取り組むと ともに、互いのよさを生かしなが ら、新たな価値を創造し、よりよい 社会を実現しようとする態度を養 う。		
具体的な評価の方法				
3つの観点について、それぞれに示す	方法で評価する。			
知識、技能	<u>思考、判断、表現</u>	主体的に学習に取り組む態度		
・ノートやレポート等における記述・行動観察	・ノートやレポート等における記述 ・行動観察 ・生徒の自己評価や相互評価	・レポート等の記述 ・行動観察 ・生徒の自己評価や相互評価		

担当者から受講上のアドバイス

進路活動を踏まえた自己実現活動のスキルを身に付けることを目標とします。自分と向き合うことを通して、相手とのコミュニケーションスキルを磨いたり、自分の興味・関心に照らした課題解決活動の方法を体験的に学んでいいきましょう。新たな自分の可能性を発見するための学習です。

学習時期 (予定)	学 習 単 元	学習単元内の内容のまとまり	備	考
年度当初~7月下旬	自分を知る、相手を知る	・今の自分を理解する		
		・これからの自分について考える		
		・自分のことを相手と伝え合う		
8月下旬~12月下旬	自己実現に向けた探究活動 I	・ちょこプロ		
		・協働的なプロジェクト活動		
1月中旬~年度末	自己実現に向けた探究活動Ⅱ	・マイプロジェクト		
		(進路活動)		

(1) 単元:自分を知る、相手を知る

単元の目標

知識及び技能

自分自身や他者と関わる探究の過程におい て、課題の解決に必要な知識および技能を身 に付け、自分の在り方生き方について探究す ることの意義や価値を理解する。

思考力、判断力、表現力等

自分自身や他者との関わりの中で、自分の在り方生き方について 課題解決のための情報を収集し、実社会や実生活との関連を考え ながらそれらを整理・分析し、まとめた内容を効果的に発信する ことができる。

観点別評価規準

知識、技能

- ①自らを客観的に見つめ、自分の在 り方について理解している。
- ②相手に自分の事をうまく伝える ことができる。
- ③多様な生き方や価値観があるこ とについて理解を深めている。
- ④相手が伝えたい情報を正しく収 集し、整理することができる。

思考、判断、表現

- ①今の自分の在り方生き方を見つ め、今後の人生について問題を見 いだして課題を設定している。
- ②他者の多様な考えや立場を理解 し、相手の意見や行動に触れ、、自 分の考えを正確に伝えることに ついて考え、工夫している。
- ③自らの思考や感情を整理し、自分 の置かれている状況を受けとめ、 自分の目標や成長のために解決 策を実践し、それを評価したり改 善したりしている。
- ④自己実現に向けた一連の活動に ついて、考察したことを根拠に基 づいてまとめ、表現している。

主体的に学習に取り組む態度

自己の在り方生き方について、課題 解決のために主体的・協働的に取り 組もうとしているとともに、互いの よさを生かしながら、新たな価値を 創造し、よりよい人生を実現しよう としている。

教材範囲	<u>内</u>	容のまとまり	I		学習時	<u>期(予定)</u> 年度当初~	~ 7 月下旬	<u>配当時間</u> 12時間
<u>学習活動、学習のねらい、学習形</u> <u>式等</u>	<u>観点別学</u> 規準	<u> </u>	<u>思</u> 規準	<u>、判、表</u> 評価方法	規準	態度 評価方法	備考(学習課題等)	-
1自分を知る	1						・お題に準じて、思い くそう ・「私は」に続く文言を で表そう	
2自分について相手に伝える	2		12				・自分について情報整 ・自分の事を相手に一	
3 自分の今後について考える	3	・ノートやレ ポート等にお ける記述	12	・ノートやレポート等における記述・行動観察		・ノートやレポート等における記述・行動観察	・ライフプランを考え ・先生達のこれまでの 分のライフプランを再 ・自分のライフプラン 感想を聞こう	生き方を知り、自 度見直そう
4相手について知る	3	• 行動観察		・生徒の自己評 価や相互評価		・生徒の自己評 価や相互評価	・相手をよく知るため ・楽しく話せる関係づ よ	/ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
5 自分を伝え、相手を知る	24		34				・他校の生徒と交流し ・自分の学校を紹介し いて知ろう	*
6まとめ			4				・これまでの取り組み についてのウェビン よう	

(2) 単元:自己実現に向けた探究活動 |

単元の目標

知識及び技能

自分自身の興味・関心に関わる探究の過程において、 課題の解決に必要な知識および技能を身に付け、自分 の在り方生き方について探究することの意義や価値を 理解する。

思考力、判断力、表現力等

自分自身の興味・関心について、それらの課題解決の ための情報を収集し、実社会や実生活との関連を考え ながらそれらを整理・分析し、まとめた内容を効果的 に発信することができる。

観点別評価規準

知識、技能

- ①自分の生活を振り返り、よりよく 過ごすために必要な取組につい て、情報の収集・整理ができる。
- ②自分の生活をよりよくするため に課題を設定し、解決するための プランを立てることの意義を理 解している。
- ③取り組みをする中で、他者の意見 を聞くことの重要性について理 解している。
- ③他者と協力し、課題を解決するために必要な情報の収集・整理ができる。

思考、判断、表現

- ①自分の身近な生活、あるいは地域において、興味・関心を持ち、問題を見いだして課題を設定している。
- ②設定した課題についての取り組 み方について、自分やペアの実 情に合ったやり方を考え、クフ している。
- ③課題解決に向けた取り組みについて、他者の取組と交流することで、自らの実践を評価したり、改善したりしている。
- ④自らが設定した課題について、 その解決に向けた一連の活動に ついて考察したことを根拠に基 づいてまとめ、表現している。

主体的に学習に取り組む態度 自身の興味・関心について

自分自身の興味・関心について、 課題解決のために主体的・協働的 に取り組もうとしているととも に、他者と交流しながら自らの取 り組みに新たな価値を創造し、自 分や地域の充実向上を図るために 課題解決しようとしている。

教材範囲内容のまとまり I学習時期 (予定)配当時間8月下旬~12月下旬15時間

) 1 H) I i	
	観点別	1学習評価				W. In. (2)	
学習活動、学習のねらい、学習形式等	規準	<u>知、技</u> 評価方法		<u>、、判、表</u> 評価方法	規準	<u>態度</u> 評価方法	備考(学習課題等)
1 ちょこプロ	12	計画力伝	(I)	計画が仏	が 中	叶仙刀仏	・自分の生活で改善
(2週間程度)							したいこと、実現し
							たいことの中から、
							課題設定し、取り組
							もう
							・中間発表
							・みんなからアドバ
							イスをもらって、自
							分の取り組みに生か
							そう
						・ノートやレポー	・ちょこプロ発表会
	00	・ノートやレポ	0.0	・ノートやレポー		ト等における記述	を実施しよう
2協働的なプロジェクト活動	23	ート等における	12	ト等における記述		 行動観察 	・自分たちの生活や
	4	記述 ・行動観察		• 行動観察		・生徒の自己評価	地域で興味・関心があることの中から、
		* 11 期 観 祭		・生徒の自己評価 や相互評価		や相互評価	課題設定し、ペアで
				77年五計川			協力して課題解決に
							取り組もう。
							・中間発表
							・みんなからアドバ
							イスをもらって、自
							分の取り組みに生か
							そう
							・発表会を実施しよ
							う
4まとめ							

(3) 単元:自己実現に向けた探究活動 ||

単元の目標

知識及び技能

自分の希望する進路を把握し、それを実現するための 探究の過程において、課題の解決に必要な知識および 技能を身に付け、自分自身の可能性に気付き、それを 探究することの意義や価値を理解する。

思考力、判断力、表現力等

自分の進路を把握し、その実現のために情報を収集し、 実社会や実生活との関連を考えながらそれらを整理・ 分析し、まとめた内容を効果的に発信することができ る

• 行動観察

や相互評価

・生徒の自己評価

観点別評価規準

まとめ

知識、技能

- ①自分を見つめ、「できること」と 「やりたいこと」の現状を把握 し、自分の進路実現に向けて必要 なスキルを獲得するための情報 の収集・整理ができる。
- ②自分の進路について、必要な情報 の収集・整理ができる。
- ③自分の進路実現や課題解決のためには、他者の協力が必要であることの理解を深めている。

思考、判断、表現

- ①自分の進路実現のために、自ら の現状を把握し、必要なスキル 獲得に向けて問題を見いだし、 課題を設定している。
- ②進路実現のために必要なスキル アップに向け、工夫している。
- ③進路実現のために、他者と協力 し、自分の取り組みを客観的評 価したり、改善したりしてい る。
- ④自らが設定した課題について、 その解決に向けた一連の活動に ついて考察したことを根拠に基 づいてまとめ、表現している。

主体的に学習に取り組む態度

自分の進路実現のために、課題解 決のために主体的・協働的に取り 組もうとしているとともに、他者 と交流しながら、自らの取り組み に新たな価値を創造し、自分や地 域の充実向上を図るために課題解 決しようとしている。

を踏まえ、進路希望

・進路に関する情報

の収集方法を知ろう ・進路実現のために 必要なスキルを把握

・進路実現のためのスキルアップに取り

・みんなからアドバ イスをもらって、自 分の取り組みに生か

・発表会を実施しよ

を把握しよう

しよう

組もう ・中間発表

そう

教材範囲 内			<u>内容のまとまり I</u>				学習時期 (予定)			<u> </u>
							1月中旬~年	F度末	8	時間
	学習活動、学習のねらい、学習形式等		<u> </u>	思	判、表 		態度	備考(学習	習課題等	;)
	1マイプロジェクト	規準	評価方法・ノートやレポ	規準 ①②	評価方法・ノートやレポー	規準	評価方法・ノートやレポー	自分の) 「で	きるこ
	(進路活動)		ート等における	34	ト等における記述		ト等における記述	- / -	りたい	

• 行動観察

や相互評価

・生徒の自己評価

記述

行動観察